

# <健康食品等に関する日本語記事情報 統合版>

2021 年前半（1 月 13 日号～6 月号 No.2）

本資料は、公益財団法人日本健康・栄養食品協会 学術情報部が、概ね隔週で会員向けに配信している「健康食品等に関する日本語記事情報」の 2021 年 1 月から 6 月配信分を統合したものです。

公益財団法人日本健康・栄養食品協会 <https://www.jhnfa.org/>

内容についてのお問い合わせ：学術情報部 E-mail : [gakuj@jhnfa.org](mailto:gakuj@jhnfa.org)

## 健康食品等に関する 日本語記事情報（2021 年 1 月 13 日号）

（1 月 11 日締め）

2021 年最初の「健康食品等に関する日本語記事情報」をお送り致します。今年も宜しく  
お願い致します。

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、公益財団法人 日本健康・栄養食品  
協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。  
（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情  
報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、  
食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨す  
るものではありません。

英文記事情報については別途お送りいたします。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承  
ください。

### ○ 記事一覧

記事の見出しと冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております。

### ■ 安全性関連情報

## 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 被害関連情報および素材情報データベース

2021年1月更新中

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2281>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2279>

素材情報データベース（新規） 1月11日現在、ありません

2020年12月分

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2263>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2265>

素材情報データベース（新規） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2272>

- 「分岐鎖アミノ酸」（201222）

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4459.html>

- 「アルギン酸」（201222）

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4460.html>

- 「メロン」（201221）

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4456.html>

- 「ニコチンアミドモノヌクレオチド」（201214）

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4452.html>

## 食品安全情報（化学物質）No. 1/ 2021（2021. 01. 06）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/2021/foodinfo202101c.pdf>

### **全リスト**

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

**気になった見出し** 「1. WHO 食品添加物シリーズ 71-S2：ピロリジジナルカロイド」

**追記**：ピロリジジナルカロイド類は植物に含まれる物質で、強い毒性を有するものもありヒトや動物の肝障害の原因となる場合があるとされています。これまで、ミツバチがピロリジジナルカロイド類を含む植物を蜜源とすしたことによるハチミツへの混入に関する海外記事を見たことがあります。また、健康食品素材としての植物原料にピロリジジナルカロイド類含有植物の混入も考えられます。ご興味ある方は次の農林水産省のHPもご覧下さい。

「食品中のピロリジジナルカロイド類に関する情報」

[https://www.maff.go.jp/j/syouan/seisaku/foodpoisoning/naturaltoxin/pyrrolizidine\\_alkaloids.html](https://www.maff.go.jp/j/syouan/seisaku/foodpoisoning/naturaltoxin/pyrrolizidine_alkaloids.html)

## ビタミンD 摂り過ぎ、高齢者の転倒リスクに

リンク DE ダイエット - 2021/1/6 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.1.6, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=73809&-lay=lay&-Find.html>

ビタミンDは健康な骨の形成に役立つことで知られるほか、筋力を高める可能性も示されているが、サプリメントによって摂り過ぎると、高齢者の転倒リスクが高まってしまうという。米・ジョンスホプキンス大学の研究。-----

## ■ 不適切な表示、販売など（行政機関情報、その他）

### 株式会社ゼネラルリンクに対する景品表示法に基づく課徴金納付命令について

消費者庁 - 2020/12/23

[https://www.caa.go.jp/notice/assets/representation\\_1223\\_1.pdf](https://www.caa.go.jp/notice/assets/representation_1223_1.pdf)

消費者庁は、本日、株式会社ゼネラルリンク（以下「ゼネラルリンク」といいます。）に対し、同社が供給する「マカミア」と称する食品に係る表示について、景品表示法第8条第1項の規定に基づき、課徴金納付命令（別添参照）を発出しました。-----

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

### 「第93回コーデックス連絡協議会」の開催について

消費者庁 - 2021/1/4 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/022583/>

農林水産省、消費者庁及び厚生労働省は、令和3年1月19日(火曜日)に、コーデックス委員会における活動状況の報告と検討議題に関する意見交換を行うため、「第93回コーデックス連絡協議会」を開催します。-----

今回は、令和2年9月から11月にかけて開催された第43回(CAC)の報告を行い、令和3年2月に開催される第32回一般原則部会(CCGP)の主な検討議題の説明を行い、意見交換を行うこととしています。-----

### 日本食品標準成分表 2020年版（八訂）

文部科学省 - 2020/12/25

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/syokuhinseibun/mext\\_01110.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/syokuhinseibun/mext_01110.html)

日本食品標準成分表 2020 年版（八訂）は、給食事業等のほか、栄養成分表示をする事業者や個人の食事管理におけるニーズの高まりに応えるため、文部科学省科学技術・学術審議会資源調査分科会の下に食品成分委員会を設置及び検討を行い、調理済み食品の情報の充実、エネルギー計算方法の変更を含む全面改訂を行ったものである。-----

**上の関連記事です。**

## **「日本食品標準成分表」2020 年版（八訂）が公開 5 年ぶりの全面改訂で炭水化物を細分化、調理済み食品がより充実**

スポーツ栄養 WEB - 2021/1/6 <https://sndj-web.jp/news/001136.php>

文部科学省は 12 月 25 日、「日本食品標準成分表」2020 年版（八訂）を公表した。5 年ぶりの全面改訂。今般の改訂では、調理済み食品の情報の充実、エネルギー計算方法の変更などが行われ、収載食品数は 2,478 食品となった。-----

## **■ 海外公的機関情報**

今回は特に見当たりませんでした。

## **■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）**

### **健食 OEM メーカー、減収 44%、増収達成 38%に（特集／健康食品受託製造・加工）**

健康メディア.com - 2021/1/4 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/14971](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/14971)

本紙編集部は、健康食品の受託加工・製造企業 184 社（有効回答 88 社）を対象とした調査を実施。2020 年売上高の増減率は、38%が前年を上回った一方、前年調査の 21%から 2 倍以上の 44%が前年割れになった。新型コロナウイルスの影響で、取引先の販売チャネルによって受注量の差が激しく売上高の増減に影響した。-----

**次の記事は、タイトルと URL のみのご紹介です。**

### **サプリー業界が剤形に力を入れた理由**

日経メディカル - 2020/12/23

<https://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/mem/pub/eye/202012/568437.html>

## ■ 具体的素材・成分、製品情報（市場予測・動向等）

今回は特に見当たりませんでした。

## ■ 企業動向、注目ビジネス情報

### 50代文系副社長、AI学んで1000時間 1人で作ったアプリが大手食品メーカー採用に至るまでの軌跡（1/3）

IT Media News - 2020/12/29

<https://www.itmedia.co.jp/news/articles/2012/29/news025.html>

「もしかしたら、経営よりも研究やエンジニアの方が天職に近いのかもしれない」——そうはにかむのは、商品パッケージのリサーチとデザインを手掛けるプラグ（東京都千代田区）の坂元英樹副社長だ。50代の文系出身。もともとは市場調査会社の社長だったが、デザイン会社と合併して今に至る。-----

### 第1回「ハームリダクションライフスタイルのルール形成に向けた研究会」開催

多摩大学ルール形成戦略研究所 - 2021/1/6 <https://crs-japan.org/news/hrl01/>

当研究所（所長：國分俊史）は、この度「ハームリダクションライフスタイルのルール形成に向けた研究会」（略称：HRL 政策研究会）を創設し、12月15日に衆議院議員会館で初回となる研究会を開催しました。

ハームリダクションライフスタイル（以下、HRL）とは、健康リスクを低減可能なプロダクト、またはその可能性のあるプロダクトであるハームリダクションプロダクト（以下、HRプロダクト）を利用して、生活習慣病を引き起こすリスクを無理なく低減するライフスタイルです。-----

**次の記事は、タイトルとURLのみのご紹介になります。**

### キリンのヘルスサイエンス事業はどこに向かうか？

### みずほ証券の佐治広氏に聞く——食品・飲料会社の健康ビジネス

森田 聡子＝ライター 2021.1.8 日経 BP 総合研究所

<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/feature/00019/010600014/>

## ■ 消費者意識等の調査・分析

今回は特に見当たりませんでした。

## ■ 機能性素材・成分関連情報（科学的知見を中心に）

### ワインとチーズが認知機能の低下を抑える役に立つ？

リンク DE ダイエット - 2021/1/5（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所） 2021.1.5, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=73806&-lay=lay&-Find.html>

赤ワインとチーズを多く含む食事をしている人は、認知機能の低下が少ないようだ、という米国アイオワ州立大学からの研究報告。-----

### ビタミンD、C、E、亜鉛、セレン、 $\omega$ 3 脂肪酸は新型コロナウイルスのリスクを下げ得るか？

スポーツ栄養 WEB - 2020/12/23

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）リスク抑制に、微量栄養素はどのくらい影響を与え得るのだろうか。COVID-19 パンデミック以来、このテーマを取り上げた多くの論文が発表されてきている。それらの中から今回は、かねてから免疫能との関連が報告されていた、ビタミンD、C、E、亜鉛、セレン、 $\omega$ 3 脂肪酸にスポットを当てた総説を紹介する。--

### 「ウーロン茶」を日中に飲むと、睡眠時の脂肪燃焼が促進されるー筑波大

QLifePro 医療ニュース - 2020/12/24

<http://www.qlifepro.com/news/20201224/oolong-tea.html>

#### 2 週間のウーロン茶摂取によるエネルギー代謝と睡眠への影響を検証

筑波大学は 12 月 23 日、ウーロン茶の習慣的な摂取が 24 時間のエネルギー代謝と睡眠に及ぼす効果を検証し、ウーロン茶やカフェイン飲料 350ml を朝昼 2 回飲んだ場合、睡眠を妨げずに 1 日の脂肪燃焼が促進されていたことがわかったと発表した。これは、同大国際統合睡眠医科学研究機構（WPI-IIIS）の徳山薫平教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Nutrients」に掲載されている。-----

## ■ その他の注目研究・技術情報

### メチル基 1 つで DNA の運動性が変わることを解明

～ 運動性という DNA 上の目印 ～

横浜市立大学 - 2020/12/22

<https://www.yokohama-cu.ac.jp/news/2020/202012arita.html>

横浜市立大学大学院生命医科学研究科 古川亜矢子 特任助教（研究開始時：サントリー生命科学財団 研究員）、有田恭平 准教授、京都大学大学院医学研究科 Erik Walinda 助教、京都大学大学院工学研究科 菅瀬謙治 准教授（研究開始時：サントリー生命科学財団グループ長）の研究グループは、ゲノムの安定性や遺伝子発現の制御などに関わる DNA のエピゲノム修飾が二本鎖 DNA の局所的な運動性を大きく変化させることを明らかにしました。-----

### 医療ビッグデータから生活習慣病因子の因果関係を推定する AI を開発

～ エビデンスに支えられた保健指導への活用に向けて ～

帝京大学 - 2020/12/24

[https://www.teikyo-u.ac.jp/application/files/8516/0877/6351/news\\_20201224\\_report.pdf](https://www.teikyo-u.ac.jp/application/files/8516/0877/6351/news_20201224_report.pdf)

帝京大学大学院医療技術学研究科診療放射線学専攻教授 古徳純一らの研究グループは、大阪大学キャンパスライフ健康支援センター特任教授 土岐博らとの共同研究（受託研究代表者：同センター長 守山敏樹）において、大阪府民 60 万人規模の健康診断データから自動的にデータ内に潜む因果関係を推定できる人工知能（以下、AI）を開発しました。-----

### ビタミン代謝物を簡単に定量できる超分子バイオセンサーを開発

@IT MONOist - 2021/1/5

<https://monoist.atmarkit.co.jp/mn/articles/2101/05/news004.html>

金沢大学は 2020 年 12 月 9 日、生体試料中のビタミン代謝物を迅速かつ簡便に定量できる超分子バイオセンサー「水溶性ピラー[6]アレーン（P6A）」を開発したと発表した。京都大学との共同研究による成果だ。-----

### 電解水素水の事前飲用が、酸化ストレスと炎症を抑制する可能性－日本トリムと理研

QLifePro 医療ニュース - 2021/1/5

<http://www.qlifepro.com/news/20210105/electrolyzed-hydrogen-water.html>

株式会社日本トリムは12月28日、整水器から生成される電解水素水を事前飲用させたラットのストレス負荷に対する生体応答への影響を調べた結果、電解水素水の事前飲用により、ストレスにさらされた際の生体の酸化ストレスと炎症が抑制され、ストレスに対する耐性が強くなることが確認されたと発表した。-----

## 地中海式食事療法は心臓発作の再発リスクを減らす？

リンク DE ダイエット – 2020/12/24-- (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2020.12.24, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=73756&lay=lay&Find.html>

地中海型の食生活は、急性心筋梗塞患者が、さらなる心臓発作を起こすリスクを低減するかもしれない、というスペイン・コルドバ大学などからの研究報告。-----

## 砂糖が若者の空腹抑制ホルモンに影響を与える

リンク DE ダイエット – 2021/1/4 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.1.4, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=73767&lay=lay&Find.html>

同量のブドウ糖（血糖）に比べて、ショ糖（砂糖）は、空腹感を抑制するホルモンを減らす効果が強いようだ、という米国サザンカリフォルニア大学ケック医学校からの研究報告。-----

**「健康食品等に関する英文記事情報（2020年12月24日号）」で、以下の論文情報としてすでにご紹介しております。**

「The Journal of Clinical Endocrinology & Metabolism」掲載論文：「Appetite regulating hormones are reduced after oral sucrose vs glucose: influence of obesity, insulin resistance and sex」<https://academic.oup.com/jcem/advance-article-abstract/doi/10.1210/clinem/dgaa865/6017471?redirectedFrom=fulltext>

## 褐色脂肪をもつ成人は慢性疾患のリスクが低い？

リンク DE ダイエット – 2021/1/7 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.1.07, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=73824&lay=lay&Find.html>

約 1 割の成人が、検出可能な褐色脂肪細胞を保持しており、肥満の有害影響から保護され、2 型糖尿病、心臓病などのリスクが低い傾向があるようだ、という米国ロックフェラー大学病院からの研究報告。-----

**今回の「英文記事情報」でも以下の論文情報として、ご紹介しております。**

「Nature Medicine」掲載論文：「Brown adipose tissue is associated with cardiometabolic health」<https://www.nature.com/articles/s41591-020-1126-7>

## 過剰な摂食と肥満が加齢を促進する？

リンク DE ダイエット – 2021/1/8（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.1.8, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=73838&-lay=lay&-Find.html>

肥満と加齢、テロメア長、そして代謝性疾患の間には関連がみられるようだ、という米国テキサス大学ヒューストン健康科学センターからの研究報告。-----

**健康食品等に関する英文記事情報（2020 年 12 月 24 日号）で、すでに以下の論文情報として紹介済みです。**

「Nature Metabolism」掲載論文：「Age-associated telomere attrition in adipocyte progenitors predisposes to metabolic disease」  
<https://www.nature.com/articles/s42255-020-00320-4>

## 食事時間の乱れは心疾患のリスクを高める

ケアネット-2020/12/23 <https://www.carenet.com/news/general/hdn/51262>

健康維持のためには、何を食べるかだけでなく、いつ食べるかに気を付けるべきだとする研究結果が、米コロンビア大学アービングメディカルセンターの Nour Makarem 氏らにより報告された。-----

## 世界初、ヒト皮膚組織内のメラニン色素を蛍光で可視化 フランスにて様々な肌色の皮膚組織により実証

株式会社コーセー - 2020/12/24

<https://www.kose.co.jp/company/ja/content/uploads/2020/12/20201224.pdf>

株式会社コーセー（本社：東京都中央区、代表取締役社長：小林 一俊）は、東北大学と共同し、世界で初めて、シミの原因となるメラニン色素そのものをヒト皮膚組織内において、三次元的に蛍光で可視化することに成功しました（図 1、図 2）。-----

## 世界で初めて確認、ナスの睡眠改善効果！

株式会社ウェルナス - 2021/1/4

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/0000000006.000062426.html>

株式会社ウェルナス(本社：東京都港区、代表取締役：小山正浩)は、世界で初めてナスの睡眠改善効果（睡眠時間延長および睡眠導入改善）を臨床試験で確認し、特許出願しましたので報告させていただきます。睡眠改善効果は、ナスの食品機能性としては血圧改善、気分改善に次いで3例目となるもので、関与成分であるナス由来コリンエステルが自律神経に働きかけて引き起こされると推定されます。-----

## なにがパプリカを赤面させるのか？

リンク DE ダイエット - 2020/12/22-- (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2020.12.22, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=73726&-lay=lay&-Find.html>

パプリカは、緑からオレンジを経て赤くなる。これは見た目には極めて明瞭な変化だが、中では何が起きているのだろうか？ 独ルール大学ポーフムからの研究報告。-----

## ■ その他

### すべての人に運動習慣を！ WHO が『身体活動と座位行動に関するガイドライン 2020』を公開、主なポイントをご紹介します

スポーツ栄養 WEB - 2020/12/28 <https://sndj-web.jp/news/001126.php>

世界保健機関（World Health Organization ; WHO）の「身体活動と座位行動に関するガイドライン」が改訂され、先ごろ 2020 年版として公開された。-----

身体活動と座位行動について、対象ごとに推奨事項を推奨レベルとともにまとめられており、主なポイントは以下のとおり。-----

### 栄養摂取状況と認知症リスクの関連は？ 米国国民健康栄養調査から示されたこと

スポーツ栄養 WEB - 2020/12/22 <https://sndj-web.jp/news/001121.php>

2015年時点で世界の認知症患者数は約5,000万人と推計され、毎年約1,000万人が新たに発症していると考えられている。現在のところ認知症に対して進行抑制薬以外の治療法は存在しない。そのため認知症パンデミックの回避には、発症リスク因子を特定し、それらの中で改善可能なものを実践することが、現段階で取り得る最善の策と言える。-----

以上

## **健康食品等に関する 日本語記事情報（2021年1月27日号）**

（1月24日締め）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

*なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。*

英文記事情報については別途お送りいたします。

**記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。**

### ○ 記事一覧

記事の見出しと冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております。

## ■ 安全性関連情報

### **国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 被害関連情報および素材情報データベース**

2021年1月更新中

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2281>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2279>

素材情報データベース（新規） 1月24日現在、ありません

2020年12月分

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2263>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2265>

素材情報データベース（新規） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2272>

## 食品安全情報（化学物質）No. 2/ 2021（2021.01.20）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/2021/foodinfo202102c.pdf>

**全リスト**

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

## ■ 不適切な表示、販売など（行政機関情報、その他）

### 通信販売業者【株式会社 Super Beauty Labo】に対する行政処分について

消費者庁 - 2021/1/14 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/022759/>

消費者庁が特定商取引法に基づく行政処分を実施しましたので公表します。

あわせて、「詐欺的な定期購入商法をめぐる状況」を公表します。

**詳細**

消費者庁は、健康食品を販売する通信販売業者である株式会社 Super Beauty Labo(本店所在地:東京都港区)(以下「スーパービューティーラボ」といいます。)に対し、令和3年1月13日、特定商取引に関する法律(以下「特定商取引法」といいます。)第15条第1項の規定に基づき、令和3年1月14日から令和3年4月13日までの3か月間、通信販売に関する業務の一部(広告、申込受付及び契約締結)を停止するよう命じました。-----

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

### きのこ中のオルニチンの定量ークロマトグラフ法の日本農林規格案についての意見・情報の募集について

農林水産省 - 2021/1/15

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003245&Mode=0](http://gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003245&Mode=0)

## 「食品衛生法施行規則の一部を改正する省令（案）」（亜硫酸水素アンモニウム水等 4 品目の添加物への指定）及び「食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件（案）」（添加物（亜硫酸水素アンモニウム水等 4 品目）の規格基準の設定）に関する御意見の募集について寄せられた御意見について

厚生労働省 - 2021/1/15

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=495200286&Mode=1](https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=495200286&Mode=1)

## ■ 海外公的機関情報

### [EFSA]食用昆虫：新規食品評価の科学

食品安全情報 blog2 - 2021/1/15

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2021/01/15/182733>

*追記：欧州連合のリスク評価機関である欧州食品安全機関（EFSA）関連情報です。日本のメディアでも報道された、ある種の昆虫（幼虫）を食品として安全と判断したことも、以下の見出しのもとで紹介されています。「新規食品としての乾燥ミールワーム(チャイロコメノゴミムシダマシ)に関する科学的意見」*

### WHO が 2019 年の世界の死因トップ 10 を発表 高所得国では心血管疾患死が減少

スポーツ栄養 WEB - 2021/1/20 <https://sndj-web.jp/news/001149.php>

世界保健機関（World Health Organization ; WHO）は先ごろ、2019 年の死因トップ 10（The top 10 causes of death）を発表した。2019 年の世界の死亡者数は 5,540 万人で、上位 10 位以内の死因がそのうちの 55%を占めていた。-----

## ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

## 富士経済、健康志向食品（明らかな食品・ドリンク類）の国内市場調査、2020年の健康志向食品市場は前年比0.9%増の1兆4999億円に

マイライフニュース - 2021/1/12

<https://www.mylifenews.net/data/2021/01/20200914999.html>

総合マーケティングビジネスの富士経済は、新型コロナウイルス感染症の流行による消費者の感染予防意識の高まりを受け拡大している健康志向食品（明らかな食品・ドリンク類）の国内市場を調査した。その結果を「H・B フーズマーケティング便覧 2021 No.1 健康志向食品編」にまとめた。-----

## コロナ禍、置き換えダイエットにニーズ増（特集／注目のダイエット食品）

健康メディア.com - 2021/1/12 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15006](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15006)

その年ごとにトレンドの変遷がみられるダイエット食品。若い女性を中心に“スリムで引き締まったボディ”“健康美なボディースタイル”を求めるニーズは相変わらず高く、今年もプロテインをベースとした商品や、「筋肉」「運動」に着目した商品上市が続いた。コロナ禍においては、インバウンドの対象だった人気ダイエット商品は苦戦を強いられた。一方、コロナ太りが増える中、食事代替品として活用できる置き換えタイプのダイエット食品やスムージーの売れ行きが伸長。新たな顧客獲得につながった。-----

## **■ 具体的素材・成分、製品情報（市場予測・動向等）**

### 「持続可能性」と「免疫」から見据えたDHA・EPA

健康メディア.com - 2021/1/21 [https://www.kenko-media.com/food\\_devlp/archives/4827](https://www.kenko-media.com/food_devlp/archives/4827)

DSMは昨年11月25日、『「持続可能性」と「免疫」から見据えたDHA・EPAの最新情報』と題したオンラインセミナーを開催した。

2050年に世界人口が90億人超と試算されるなか、科学と機能性素材を通じて、どのように地球と人類社会のサステナビリティに貢献できるかがDSMグループのミッション。今回、循環器系、脳や認知機能、視力や目の健康などの研究が進むDHA・EPAに焦点を当て、栄養脂質をとりまく市場トレンドや持続可能性などの新しい方向性、オメガ3脂肪酸と免疫に関わる最新情報について講演した。-----

## ■ 企業動向、注目ビジネス情報

### エスビー食品と愛媛大学 日本の食卓に欠かせないスパイス&ハーブを 対象とした健康調査研究を開始

エスビー食品株式会社 - 2021/1/15

[https://www.sbfoods.co.jp/company/newsrelease/2021/bnlkv80000008auo-att/210115\\_epidemiology.pdf](https://www.sbfoods.co.jp/company/newsrelease/2021/bnlkv80000008auo-att/210115_epidemiology.pdf)

エスビー食品株式会社と国立大学法人愛媛大学は、スパイス&ハーブの摂取※1 と健康状態の関連を明らかにすることを目的に、新たな共同研究を開始しました。スパイス&ハーブを広く調査対象とした疫学（コーホート）研究となり、約 5 年間で 5,000 人に及ぶ調査の第 1 回目の調査が 2020 年 12 月 12 日（土）から始まりました。-----

### インサイトテック、生活者の不満×AI でアイデア創発を支援し商品企画 DX を実現する「IDEAI（アイデアイ）」をローンチ

株式会社 Insight Tech - 2021/1/18 <http://lab.insight-tech.co.jp/articles/249/>

株式会社 Insight Tech（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：伊藤友博）は、生活者が感じる不満のビッグデータからアイデア創発につながる情報を文章解析 AI「アイタス」で探索し、商品企画の DX（デジタルトランスフォーメーション）を実現する「IDEAI（アイデアイ）」を正式にローンチしました。「AI で出会えるアイデア」をコンセプトとする「IDEAI（アイデアイ）」を通じ、生活者起点での商品企画プロセス変革をサポートするとともに、より豊かな生活の実現を牽引していきます。-----

## ■ 消費者意識等の調査・分析

今回は、特に見当たりませんでした。

## ■ 機能性素材・成分関連情報（科学的知見を中心に）

### オメガ3 脂肪酸の有益性はアスリート、アマチュアで同等か？ ナラティブレビュー

スポーツ栄養 WEB - 2021/1/20 <https://sndj-web.jp/news/001151.php>

オメガ3脂肪酸に関して、心血管疾患リスク抑制のエビデンスは豊富だが、近年はそれに加え、スポーツパフォーマンスへの有益性を示唆する報告が増えている。ただし、心血管疾患のリスク抑制に比べれば、まだエビデンスレベルが高くない。こうした中、アスリートまたはアマチュアのパフォーマンスに対するオメガ3脂肪酸摂取の影響をナラティブレビューとして検討した論文が報告された。-----

## オメガ-3系脂肪酸は運動後の心拍数の回復を助ける？

リンク DE ダイエット - 2021/1/13 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.1.13, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=73893&lay=lay&Find.html>

血中オメガ-3系脂肪酸が高い人は、最大運動負荷後の心拍数の低下（回復）が早いようだ、という米国クーパー研究所と脂肪酸研究所からの報告。-----

**昨年発信した英文記事情報（2020年12月24日号）で、以下の論文情報としてご紹介しております。**

「Prostaglandins, Leukotrienes and Essential Fatty Acids」掲載論文：「Higher omega-3 index is associated with more rapid heart rate recovery in healthy men and women」

[https://www.plefa.com/article/S0952-3278\(20\)30164-2/fulltext](https://www.plefa.com/article/S0952-3278(20)30164-2/fulltext)

## 毎日のアボカドが腸内細菌を健康に保つ？

リンク DE ダイエット - 2021/1/14 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.1.14, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=73928&lay=lay&Find.html>

食物繊維と一価不飽和脂肪酸を豊富に含むアボカドを毎日食べると、腸の健康を改善するのに役立つようだ、という米国イリノイ大学農学部からの研究報告。-----

**前回発信した「英文記事情報（2021年1月13日号）」の方で、以下の論文情報としてご紹介しております。**

「The Journal of Nutrition」掲載論文：「Avocado Consumption Alters Gastrointestinal Bacteria Abundance and Microbial Metabolite Concentrations among Adults with Overweight or Obesity: A Randomized Controlled Trial」

<https://www.foodnavigator-usa.com/Article/2021/01/06/Avocados-and-gut-health-Study-supports-link-between-daily-avocado-consumption-and-increased-gut-microbiota-diversity>

## 烏龍茶で睡眠中に脂肪分解

リンク DE ダイエット – 2021/1/19 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.1.19, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=73976&lay=lay&Find.html>

昼間に烏龍茶を飲むと、夜間睡眠中に脂肪の分解が促進されることが発見された。「眠っている間に体重を減らす」なんて嘘のような本当の話かもしれない、とのことだ。筑波大学の研究。-----

*前回の「日本語記事情報 (2021年1月13日号)」で、別サイトの情報 (全文閲覧には登録が必要) をご紹介しました。今回のサイトは、登録不要ですので改めてご紹介していません。*

## 微細藻類ユーグレナが、免疫バランス調整等の可能性が注目される酪酸 (らくさん) を産生する腸内細菌の占有率上昇および酪酸産生増加に寄与することを確認しました

腸内環境から改善し、根本から元気なカラダを支える可能性

株式会社ユーグレナ - 2021/1/15 <https://www.euglena.jp/news/20210115-2/>

株式会社ユーグレナ (本社: 東京都港区、社長: 出雲充、以下「ユーグレナ社」) と神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科 (佐々木建吾客員准教授) は、共同研究により、微細藻類ユーグレナ (和名: ミドリムシ、以下「ユーグレナ」) が、免疫バランスの調整や2型糖尿病の症状改善に寄与する可能性が注目される酪酸 (らくさん) を産生する腸内細菌 (以下「酪酸菌」) に関して、腸内細菌叢 (さいきんそう) における酪酸菌の占有率の上昇および酪酸産生を増やすことが示唆される研究成果を確認したことをお知らせします。----

## ■ その他の注目研究・技術情報

### ヒトの食事と腸内細菌、健康の間に強い相関を発見!

リンク DE ダイエット - 2021/1/13 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.1.13, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=73894&lay=lay&Find.html>

ある種の植物ベースの食品を豊富に含む食事は、肥満、2型糖尿病、心血管系疾患のリスクを低下する腸内細菌の存在に関連付けられるようだ、という英国キングスカレッジロンドン、米国ハーバード大学などによる大規模国際共同研究。-----

**同時発信の英文記事情報（2021年1月27日号）の方でも、以下の論文情報としてご紹介しております。**

「Nature Medicine」掲載論文：「Microbiome connections with host metabolism and habitual diet from 1,098 deeply phenotyped individuals」

<https://www.nature.com/articles/s41591-020-01183-8>

## 腸内細菌は拒食症に関連しているかも

リンク DE ダイエット – 2021/1/18（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.1.18, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=73963&-lay=lay&-Find.html>

腸内細菌は、食欲、体重、不安や強迫行動など精神医学上の問題に影響することにより、拒食症に重要な役割を果たす可能性がある、という英国オックスフォード大学からのレビュー報告。-----

**同時発信の「英文記事情報（2021年1月27日号）」でも、以下の論文情報としてご紹介しております。**

「Frontiers in Psychiatry」掲載論文（オープンアクセス）：「The Gut Microbiome in Anorexia Nervosa: Friend or Foe?」

<https://www.frontiersin.org/articles/10.3389/fpsy.2020.611677/full>

## 過剰な食品品質管理システムが食物アレルギーを起こす？

リンク DE ダイエット – 2021/1/20（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.1.20, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=73981&-lay=lay&-Find.html>

我々を有害な食品摂取から守るための生物学的な食品品質管理システムが食物アレルギー増加の原因の一端ではないか、という米国イェール大学からの研究報告。-----

## 脳への糖の取込みを促進すると、加齢による ATP 減少や運動機能低下を抑制できる 食事療法を組合せるとさらに効果

糖尿病リソースガイド - 2021/1/12 <http://dm-rg.net/news/2021/01/020608.html>

東京都立大学は、神経細胞内の糖取り込みを促進すると、加齢による ATP 減少および運動機能低下が抑えられ、寿命が延びることを発見した。食事制限を組合せると、さらに寿命が延びることが分かった。

脳の老化の予防による新たな健康寿命の延伸の確立に役立つ可能性がある。-----

## **【研究発表】脳の老化と寿命に関わるメカニズムを発見 — 脳内の糖がぴんぴんころりの鍵 —**

東京都立大学 - 2021/1/5 <https://www.tmu.ac.jp/news/topics/30590.html>

-----

東京都立大学大学院 理学研究科 生命科学専攻の岡未来子大学院生と安藤香奈絵准教授らの研究グループは、加齢による脳神経細胞内の糖代謝変化と個体の老化との関係について、モデル動物であるショウジョウバエを用いて調べました。その結果、加齢による脳神経細胞内の ATP 量の減少は、神経細胞内への糖取り込みを促進することで抑えられることを発見しました。-----この発見は、脳のアンチエイジングと健康寿命の延伸のための新たな抗老化戦略や創薬に繋がることが期待されます。本研究成果は、2020年12月21日（月）に米国科学雑誌 Cell の姉妹誌「iScience」オンライン版に掲載されました。-----

## **新型コロナ医療現場における患者から医療従事者への経路別感染リスクを算出—近大**

QLifePro 医療ニュース - 2021/1/12

<http://www qlifepro.com/news/20210112/risk-of-covid19-infection.html>

### **0.6m 間隔での各感染リスクモデルを構築しシミュレーション**

近畿大学は1月8日、医療現場における新型コロナウイルス感染症のリスクを、「飛沫感染」「接触感染」「空気感染」といった感染経路別に推算するモデルを構築して経路別の感染リスクを算出し、同時に、「サージカルマスク」「フェイスシールド」「換気」等の感染予防策を行った場合の効果も評価した結果、患者と医療従事者が近接する状況においては、飛沫感染が主な感染経路であり、次に接触感染であることが判明したと発表した。-----

## **主観的幸福感と共感性の基盤となる安静時脳機能ネットワークを解明—京大ほか**

QLifePro 医療ニュース - 2021/1/12

<http://www qlifepro.com/news/20210112/subjective-happiness.html>

「主観的幸福感」と「共感性」の相関関係の基盤となる脳機能は？

京都大学は1月8日、幸福感と共感性を関連付ける安静時における脳機能ネットワークを解明したと発表した。この研究は、同大学院人間・環境学研究科の月浦崇教授らと、米国ノースイースタン大学の勝見祐太博士研究員およびイリノイ大学の Florin Dolcos 准教授らとの共同研究グループによるもの。研究成果は、「NeuroImage」にオンライン掲載されている。-----

## グリア細胞のアデニル酸シクラーゼ活性化が、記憶の形成と保持を調整 ー 東大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2021/1/14

<http://www.qlifepro.com/news/20210114/glia-cells.html>

### cAMP の生産を光で制御できる遺伝子改変マウスを作製

東京大学は1月12日、光に応じてアストロサイトのアデニル酸シクラーゼを活性化させる遺伝子改変マウスを用いた研究で、アストロサイトのアデニル酸シクラーゼ活性化は記憶の形成と保持を調整することを示したと発表した。-----

## シワが皮膚のどの深さの構造変化によってできているかを特定

皮膚を傷つけずに、皮膚内部を可視化し定量評価する最新技術

花王株式会社 - 2021/1/8 <https://www.kao.com/jp/corporate/news/rd/2021/20210108-003/>

花王株式会社（社長・長谷部佳宏）生物科学研究所・スキンケア研究所と筑波大学医学医療系 安野嘉晃教授らの研究グループは、皮膚を傷つけずに皮膚断層像を取得できる JM-OCT を用いて、皮膚のどの深さの構造変化がどの程度シワ形成に影響しているのかを明らかにしました。-----

## MIT 開発のポータブル光学センサーは植物の健康状態をリアルタイムで測定！

Techable - 2021/1/18 <https://techable.jp/archives/146445>

センシング技術や AIなどを駆使して環境状況を把握し制御することで、農作物の収量や品質を最大化、収穫を持続可能なものにする精密農業は、人口増加や気候変動による食料不足に対応するうえで重要な戦略だ。土壌センサーやフィールドセンサーなどがすでに多くの農場で取り入れられ、役立てられている。-----

## ■ その他

以下の記事は、タイトルと URL のみのご紹介となります。

**プロテオミクス** 日々作られる体内のたんぱく質で未病からのアプローチを可能に  
Beyond Health (日経 BP 総合研究所) - 2021/1/14 (伊藤 瑳恵=ライター 2021.1.14)  
<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/keyword/19/00094/>

以上

## **健康食品等に関する 日本語記事情報 (2021 年 2 月 10 日号)** (2 月 5 日正午締め)

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、(公財)日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。  
(例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等)

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

英文記事情報については別途お送りいたします。

**記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。**

### ○ 記事一覧

記事の見出しと冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております。

## ■ 安全性関連情報

**国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所  
被害関連情報および素材情報データベース**

2021 年 2 月更新中

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2289>

素材情報データベース (更新) <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2288>

素材情報データベース (新規) 2 月 5 日正午時点ありません

2021年1月分

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2281>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2279>

素材情報データベース（新規） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2285>

● 「ニコチンアミドリボシド (NR)」 (210125)

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4467.html>

● 「テフ」 (210125)

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4466.html>

## 食品安全情報（化学物質）No. 3/ 2021（2021.02.03）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/2021/foodinfo202103c.pdf>

**全リスト**

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

## ■ 不適切な表示、販売など（行政機関情報、その他）

### 株式会社 EC ホールディングスに対する景品表示法に基づく課徴金納付命令について

消費者庁 - 2021/1/28 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/022770/>

消費者庁は、本日、株式会社 EC ホールディングスに対し、同社が供給する「ブラックサブリ EX」と称する食品に係る表示について、景品表示法第 8 条第 1 項の規定に基づき、課徴金納付命令を発出しました。

### 株式会社だいにち堂に対する景品表示法に基づく課徴金納付命令について

消費者庁 - 2021/2/3 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/022951/>

消費者庁は、本日、株式会社だいにち堂に対し、同社が供給する「アスタキサンチン アイ&アイ」と称する食品に係る表示について、景品表示法第 8 条第 1 項の規定に基づき、課徴金納付命令を発出しました。-----

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

### 「食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件（案）」（清涼飲料水の規格基準の改正）に関する御意見の募集について

<https://public-comment.e>

[gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=495200413&Mode=0](https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=495200413&Mode=0)

案件番号 495200413

案の公示日 2021 年 1 月 29 日

受付締切日時 2021 年 2 月 27 日 23 時

所管省庁 厚生労働省

## ■ 海外公的機関情報

今回は特に見当たりませんでした。

## ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

### 健康食品市場、20 年度は 0.7%増、機能性表示食品が拡大をけん引

ダイヤモンド・チェーンストアオンライン - 2021/1/26

<https://diamond-rm.net/market/74143/>

矢野経済研究所の調べによると、2020 年度の国内の健康食品市場規模（メーカー出荷額ベース）は、前年度比 0.7%増の 8680 億円となりそうだ。市場拡大の勢いが続く機能性表示食品が、全体をけん引している。-----

### 2020 年度上半期の注目カテゴリーランキング「食品編」 コロナ禍による内食生活の浸透で調味料など 22 カテゴリーが伸長

ダイヤモンド・チェーンストアオンライン - 2021/1/26

<https://diamond-rm.net/sales-promotion/73854/>

2020 年度上半期の注目カテゴリーランキング、食品では 25 カテゴリーを取り上げた。期間通算の金額 PI で前年を上回ったのは 22 カテゴリー。そのうち 12 カテゴリーが 2 ケタ増となった。-----

## **富士経済、加工食品の市場調査、2020年市場見込では袋めんが前年比9.4%増の1275億円・シリアルフーズが同11.6%増の695億円に**

マイライフニュース - 2021/1/25

<https://www.mylifenews.net/data/2021/01/2020941275116695.html>

総合マーケティングビジネスの富士経済は、内食や備蓄向けに需要が増加するめん類や米飯類、健康志向の高まりから需要が増えるヨーグルトといったチルドデザートなどの市場を調査した。その結果を「2021年 食品マーケティング便覧 No.3」にまとめた。-----

## **■ 具体的素材・成分、製品情報（市場予測・動向等）**

### **マンダイなど、「海産物の機能性食品素材」をフォーカス**

健康メディア.com - 2021/2/2

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15060](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15060)

ファンクショナルフード学会は1月9日、第17回学術集会をオンラインで開催した。今回、「海産物の機能性食品素材」を企画。大会長講演では、水産研究・教育機構水産技術研究所水産物応用開発部の石原賢司氏がマンダイの健康機能を取り上げた。-----

## **■ 企業動向、注目ビジネス情報**

### **凸版印刷・日本総合研究所他3社、鮮度の可視化と個別追跡管理による食品ロス削減の実証実験を実施**

IoT News - 2021/1/21 <https://iotnews.jp/archives/162699>

食品流通業では、食品ロスの削減が大きな課題となっています。食品ロスの削減は、持続可能な開発目標（SDGs）のターゲットの一つとして掲げられ、国内でも食品ロス削減推進法が2019年10月1日に施行されるなど、関連する取り組みは国内外で活発化している。-----

### **食品のバーコードや原材料名から健康への影響をAIが数値化する世界初の新サービス「FoodScore」提供開始**

ロボスタ - 2021/2/4 (By 山田 航也)

<https://robotstart.info/2021/02/04/food-health-impact-quantify.html>

株式会社シグナルトークはコロナ禍の中、自宅で健康的な食品を買いたい人向けに、食品のバーコードや原材料名からそれぞれの食品の健康への影響を AI が数値化してリスト化し、指標を基に食品を購入する新しい価値を提供する世界初の新サービス「FoodScore」(フードスコア)を2月4日から開始することを発表した。利用は無料。-----

## ■ 消費者意識等の調査・分析

### ロート製薬、「妊活」に対する知識・理解の普及を目的とした意識調査「妊活白書 2020」を発表、新型コロナウイルスの影響による妊活変化がみられ意識や行動に新たな兆し

マイライフニュース - 2021/2/1 <https://www.mylifeneews.net/data/>

ロート製薬は、「妊活」に対する知識・理解の普及を目的として、2018年から「妊活」に対する意識調査を行っている。2020年は、新型コロナウイルスの影響による意識や行動変化の調査を行ったところ、妊活の新たな形や兆しがみえてきましたので、その結果を「妊活白書 2020」として公開する。-----

### 肉食増でスパイス需要が拡大！スパイスに関するアンケート調査～スパイス料理の悩み「使い切れず余らせてしまう(66%)」を解決するポイントとは～ フーディストサービス (アイランド株式会社) 調査

アイランド株式会社 - 2021/1/26 <https://www.ai-land.co.jp/press/p-ailand/9929/>

アイランド株式会社(本社：東京都渋谷区、代表取締役：栗飯原理咲)が運営する、食からはじまるライフスタイル提案サービス「フーディストサービス」(日本最大級の料理ブログのポータルサイト「レシピブログ： <https://www.recipe-blog.jp/>」、日本最大級の料理インスタグラマーコミュニティ「フーディーテーブル： <https://foodietable.jp/>」)は、この度、運営サービスの利用者を対象に、スパイス活用に関するユーザーアンケートを実施しました。-----

## ■ 機能性素材・成分関連情報 (科学的知見を中心に)

### 【コラム|更新】α-リポ酸の健康効果について

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 - 2021/1/29

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4470.html>

## カフェインの摂取タイミングは運動 1 時間前がベストかも 下半身の筋力への影響の比較

スポーツ栄養 WEB - 2021/2/2 <https://sndj-web.jp/news/001158.php>

カフェインの筋力に対するエルゴジェリック効果を期待するなら、競技の 1 時間前に摂取するとよいかもしれない。2 時間前と比較して、パフォーマンスへの影響が大きい可能性があるという。また、カフェイン摂取のパフォーマンスへの影響は、女性よりも男性で大きいことも示された。-----

## カフェインとパフォーマンスとの関係について、国際スポーツ栄養学会 (ISSN) の見解

スポーツ栄養 WEB - 2021/1/26 <https://sndj-web.jp/news/001156.php>

アスリートのカフェイン摂取に関する国際スポーツ栄養学会 (ISSN) の見解が、同学会学会誌「J Int Soc Sports Nutr」に掲載された。カフェインの歴史から摂取源、スポーツにおける合法性、体内動態、作用機序、パフォーマンスへの影響、パフォーマンスへの影響を規定する因子、持久系・筋力系での相違、高地環境・暑熱環境での適用、作用発現と遺伝との関係、副作用・有害事象、摂取タイミング、摂取経路（チューイングガム、マウスリンス、パウダー、点鼻、カフェインバー）、他の成分との併用（クレアチン、炭水化物）など、非常に広範な内容にわたってまとめられている。-----

**追記：「英文記事情報（2021 年 1 月 13 日号）で、すでに以下の論文情報としてご紹介しましたが、上の記事では詳細に纏められておりますので、あらためてご紹介いたします。**

「Journal of the International Society of Sports Nutrition」掲載論文（オープンアクセス）：「International society of sports nutrition position stand: caffeine and exercise performance」<https://jissn.biomedcentral.com/articles/10.1186/s12970-020-00383-4>

## クルミの健康への影響を人工知能が発見する

リンク DE ダイエット – 2021/2/5（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.2.5, EurekAlert より

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=74180&lay=lay&Find.html>

クルミの摂取は、2 型糖尿病や心血管系疾患のリスク低下に関連する代謝シグネチャを体内に残すようだ、という米国ハーバード大学などからの研究報告。-----

追記：同時発信の「日本語記事情報（2021年2月10日号）でも、以下の論文情報としてご紹介しております。

「The Journal of Nutrition」掲載論文：「Walnut Consumption, Plasma Metabolomics, and Risk of Type 2 Diabetes and Cardiovascular Disease」

<https://academic.oup.com/jn/article-abstract/151/2/303/6056508?redirectedFrom=fulltext>

## ■ その他の注目研究・技術情報

### 体内時計が行動・覚醒を引き起こすメカニズムの一端を解明－金沢大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2021/2/4

<http://www.qlifepro.com/news/20210204/gaba.html>

GABA を放出する神経細胞が、適切な時間帯に動物の覚醒を引き起こすメカニズムは？

金沢大学は2月3日、体内時計が動物の行動する時間帯を設定する制御メカニズムの一端を明らかにしたと発表した。この研究は、同大医薬保健研究域医学系の前島隆司准教授、三枝理博教授らと、明治大学、東邦大学、自然科学研究機構の共同研究グループによるもの。研究成果は、「Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America」オンライン版に掲載されている。-----

関連情報 金沢大学ニュースリリース：<https://www.kanazawa-u.ac.jp/rd/88959>

### 植物性の低脂肪食と動物性の低炭水化物食の比較：臨床試験

リンク DE ダイエット – 2021/1/25（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.1.25, EurekAlert より

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=74050&-lay=lay&-Find.html>

低脂肪植物ベースの食事をする人々は、低炭水化物動物ベースの食事をする人々に比べて、1日あたりの摂取カロリーが少なめだが、血中インスリンと血糖値は高めであった、という米国 NIH/国立糖尿病・消化器・腎疾病研究所からの臨床試験の結果報告。-----

### 不安定化した免疫系の暴走が脳の老化の原因かも

リンク DE ダイエット – 2021/1/26（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.1.26, EurekAlert より

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=74062&-lay=lay&-Find.html>

脳の老化には、不安的になった免疫系の特定の細胞が、炎症を鎮める代わりに慢性炎症を促進するためかもしれない、という米国スタンフォード大学からの研究報告。-----

## 深い眠りにゴミ出し機能

リンク DE ダイエット – 2021/1/27 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.1.27, EurekAlert より

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=74073&-lay=lay&-Find.html>

深い睡眠には老廃物を取り除く太古から備わる回復力が伴っているかもしれない、という米国ノースウェスタン大学からのショウジョウバエを用いた実験報告。-----

**追記：前回発信した「英文記事情報（2021年1月27日号）」の方で、以下の論文情報としてご紹介しております。**

1月27日以下の「Science Advances」掲載論文（オープンアクセス）：「A deep sleep stage in Drosophila with a functional role in waste clearance」

<https://advances.sciencemag.org/content/7/4/eabc2999>

## 食物アレルギーに関連する腸内細菌が明らかに？

リンク DE ダイエット – 2021/2/1 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.2.1, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=74123&-lay=lay&-Find.html>

食物アレルギーに関連する64の異なる細菌種と代謝物のセットが特定された、という米国シカゴ大学とスタンフォード大学からの研究報告。-----

**追記：英文記事情報（2021年1月27日号）でも、以下の論文情報としてご紹介しております。なお、英文記事情報で被験者に関する説明に不正確な点がありました。説明が不正確であったこと、この場をお借りしてお詫びいたします。**

「The Journal of Clinical Investigation」掲載論文（オープンアクセス）：「Fecal microbiome and metabolome differ in healthy and food-allergic twins」

<https://www.jci.org/articles/view/141935>

## 花王と奈良先端科学技術大学院大学、ディープラーニング技術を用いた新素材開発手法を開発

IoT News - 2021/1/21 <https://iotnews.jp/archives/162705>

商品開発を行なうには優れた素材の開発が必要である。たとえば、洗剤の場合は、界面活性剤が重要な素材のひとつとなる。しかし、今まで素材開発はトライアンドエラーを繰り返す方法で行なわれていたため、莫大な時間と費用が掛かっていた。-----

## 'うま味'感度が低い人は甘いもの好きの肥満が多く、摂取エネルギー量が増えやすい

スポーツ栄養 WEB - 2021/2/5 <https://sndj-web.jp/news/001188.php>

'うま味'に対する味覚感度が低い人には肥満が多く、感度が良好な人に比べると、摂取エネルギー量が経年的に増えていきやすいことを示した、日本人対象の研究結果が報告された。うま味に対する感度が低い人は甘味を感じることで満足感を得ており、そのような食習慣が肥満を増やしてしまうとも考えられるという。-----

## 長寿医療における AI

医療 AI ニュース (The Medical AI Times) - 2021/2/1 TOKYO analytica  
<https://aitimes.media/2021/02/01/7189/>

老化研究から健康寿命延伸に取り組む AI スタートアップ「Deep Longevity」については、AIによる心理的老化マーカー研究に関して以前に紹介した（過去記事）。同社から学術誌 Nature Aging に直近で寄稿されたコメンタリー論文では、最新の AI 研究が長寿医療分野にどうつながっているか概説されている。-----

*次の記事はタイトルと出典のみのご紹介になります。*

## 日本食らしい食事に変えると認知症リスクが低下、東北大の研究グループ 観察対象者を一定期間追跡する縦断研究で

Beyond Health (日経 BP 総合研究) - 2021/2/3 (HealthDay News 2021.2.3)  
<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/news/domestic/00065/>

## ■ その他

今回、特にありません。

以上

## 健康食品等に関する

## 日本語記事情報（2021年2月24日号）

（2月19日正午締め）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

*なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。*

英文記事情報については別途お送りいたします。

**記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。**

### ○ 記事一覧

記事の見出しと冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております。

## ■ 安全性関連情報

### 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 被害関連情報および素材情報データベース

2021年2月更新中

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2289>

厚生労働省と北海道が医薬品成分（シルデナフィル）を含む製品に注意喚起（210216）  
<https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4476.html>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2288>

素材情報データベース（新規） 2月19日正午時点、ありません

2021年1月分

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2281>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2279>

素材情報データベース（新規） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2285>

● 「ニコチンアミドリボシド（NR）」（210125）

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4467.html>

●「テフ」 (210125)

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4466.html>

## 食品安全情報（化学物質）No. 4/ 2021（2021. 2.17）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/2021/foodinfo202104c.pdf>

### 目に付いた見出し

【EFSA】 食品に関する統一された包装前面表示と強調表示の制限に向けて情報提供するための EFSA の科学的助言

#### 【ANSES】

1. 子供用ビタミン D：過剰摂取リスクを予防するためにフードサプリメントではなく医薬品を使うこと

*追記： ANSES（フランス食品環境労働衛生安全庁）の公表文書が紹介されています。下の食品安全情報 blog2 でもご覧頂けます。*

### 全リスト

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

## [ANSES]子供用ビタミン D：過剰摂取リスクを予防するためにフードサプリメントではなく医薬品を使うこと

食品安全情報 blog2 - 2021/2/17

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2021/02/17/181240>

*追記：2つ目の項目です。*

## ■ 不適切な表示、販売など（行政機関情報、その他）

### 新型コロナウイルスに対する予防効果を標ぼうする商品等の表示に関する改善要請及び一般消費者等への注意喚起について

消費者庁 - 2021/2/19 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/023162/>

消費者庁は、今般の新型コロナウイルス感染症の拡大に乘じ、インターネット広告において、新型コロナウイルスに対する予防効果を標ぼうする健康食品、マイナスイオン発生器、除菌スプレー等に対し、緊急的措置として、景品表示法(優良誤認表示)及び健康増進法(食品

の虚偽・誇大表示)の観点から表示の適正化について改善要請を行うとともに、SNS を通じて一般消費者等への注意喚起を行いました。

## **株式会社ミーロードの『肥後すっぽんもろみ酢 トクトクコース』の広告サイトの表示についての改善要請対応を終了しました**

消費者機構日本 - 2021/2/17 [http://www.coi.gr.jp/zesei/topic\\_210216\\_01.html](http://www.coi.gr.jp/zesei/topic_210216_01.html)

株式会社ミーロードが販売するダイエットサプリメント「肥後すっぽんもろみ酢 トクトクコース」の広告サイトの表示・申込確認画面について、改善がなされました。一部にさらに改善が望まれる課題が残っていますが、当機構としては一旦対応を終了することとしました。-----

## **■ 行政・法令関連情報（その他）**

今回、特に見当たりませんでした。

## **■ 海外公的機関情報**

食品安全情報（化学物質）No. 4/ 2021（2021. 2.17）以外、見当たりませんでした。

## **■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）**

### **TPC マーケティングリサーチ株式会社、2021 年 ロコモティブシンドローム市場の実態と展望について調査結果を発表**

Dream News - 2021/2/15 <https://www.dreamnews.jp/press/0000231258/>

2019 年度のロコモティブシンドローム関連商品の市場規模は前年度比 7.3%増の 1,566.2 億円となった。拡大要因としては、（1）関節痛などに悩む 50 代以上の増加、（2）これら世代の積極的な社会参画、（3）機能性表示食品制度の開始による各社の積極的な商品展開などが該当する。

当資料では、44 社を対象企業に選定。ロコモ市場について商品別・分野別・訴求別・チャネル別など多角的に分析し、各社の今後の戦略についてレポートしている。-----

## ■ 具体的素材・成分、製品情報（市場予測・動向等）

### 感染防御意識の高まりで脚光 欧米で利用増加、国内市場拡大の兆し （特集／βグルカン）

健康メディア.com - 2021/2/12 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15074](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15074)

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大によってクローズアップされるようになった免疫機能。食品の摂取により免疫賦活を期待する消費者はコロナ騒動以降増えており、国内では乳酸菌やプロポリスなどの素材が注目を集めた。β-グルカンもその一つ。すでに欧米では“イミュンヘルス”と称し、免疫へ働きかけるサプリメントとして定着しており、コロナ禍で免疫サプリの売上が増加している。国内ではβ-グルカンの認知度は低いものの、確かなエビデンスを武器に今後の流通拡大が期待されている。-----

## ■ 企業動向、注目ビジネス情報

### アミノ酸を科学的に学べるサイト「アミノ酸スポーツ栄養科学ラボ」を公開 味の素

スポーツ栄養 WEB - 2021/2/16 <https://sndj-web.jp/news/001193.php>

味の素株式会社は先ごろ、スポーツシーンにおけるアミノ酸の機能性について、科学的に学べる情報サイト「アミノ酸スポーツ栄養科学ラボ」を開設した。スポーツ時に身体に生じる変化や課題について、国内の著名なスポーツ科学研究者の監修により、学術論文も引用しながら解説され、正しく理解することができる。また、アミノ酸の機能性については、同社がこれまで取得した研究データに基づいて、スポーツ栄養上の課題解決法の一つとして、わかりやすく説明している。-----

### Seed Health - 便を評価する AI 企業「auggi」を買収

The Medical AI Times - 2021/2/15 (TOKYO analytica)

<https://aitimes.media/2021/02/15/7374/>

便の性状や硬さを7つのカテゴリに分類する「ブリストルスケール」は主観的であり、一貫性のある評価が難しい課題があった。画像認識 AI の隆盛で、ブリストルスケールの自動識別機能を有するスマートトイレ構想がスタンフォード大を中心としたグループから発表され話題となった（過去記事 2020/04/13）。-----

## アクセンチュアと国立国際医療研究センター、生活習慣病リスクの AI 予測モデル構築に向け共同研究を開始

アクセンチュア株式会社 - 2021/2/12

<https://newsroom.accenture.jp/jp/news/release-20210212.htm>

東京発：2021年2月12日】アクセンチュア株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：江川 昌史、以下、アクセンチュア）と国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（東京都新宿区、理事長：国土 典宏、以下、NCGM）は、10年近くかけて蓄積された約12万件の健康診断データを基に、生活習慣病（糖尿病・高血圧症・脂質異常症）の将来リスクを確率として提示する、解釈性の高い人工知能（AI）モデルの構築を目指し、共同研究を開始することを発表します。-----

## 食品表示の目検リスクと現場のストレスに警鐘。デジタル校正が負担軽減の糸口に～株式会社 Too

フーズチャンネル - 2021/2/17 <https://www.foods-ch.com/anzen/1613458250730/>

賞味期限の誤表示やアレルギー物質表示の欠落。食品メーカーにとってパッケージ表記のささいなミスは、時として大量の食品リコール（自主回収）につながってしまう。間違いが許されない校正担当者のプレッシャーはいかばかりだろう。どんなに時間をかけ、ダブルチェック、トリプルチェックと入念に確認しても、ヒューマンエラーはゼロにはならない。---

## ■ 消費者意識等の調査・分析

### 健康食品の伸びしろはまだまだある（連載／オピニオン）

健康メディア.com - 2021/2/17 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15107](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15107)

東京都が1月27日に発表した都民生活に関する世論調査では、今後切り詰めるものについて聞いている。

調査は昨年9月から10月にかけて行った都民対象のもの。これから1年間の暮らし向きについて質問した結果、「楽になる」はわずか3%で、「変わらない」が42%、「苦しくなる」は45%だった。-----

## ■ 機能性素材・成分関連情報（科学的知見を中心に）

### 緑茶化合物が腫瘍抑制因子 p53 の機能を助ける

リンク DE ダイエット – 2021/2/16（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.2.16, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=74335&-lay=lay&-Find.html>

緑茶に含まれるエピガロカテキンガレート（EGCG）が、腫瘍抑制因子である p53 のレベルを上昇させる可能性がある、という米国レンセラー工科大学からの研究報告。-----

**同時発信の「英文記事情報」の方でも、以下の論文情報としてご紹介しております。**

「Nature Communications」掲載論文（オープンアクセス）：「EGCG binds intrinsically disordered N-terminal domain of p53 and disrupts p53-MDM2 interaction」

<https://www.nature.com/articles/s41467-021-21258-5>

### ナッツ類は子どもの健康にもメリットがある？ 系統的レビューからのエビデンス

スポーツ栄養 WEB - 2021/2/16 <https://sndj-web.jp/news/001197.php>

成人を対象とする研究からは、ナッツ類の適度な摂取が健康に良いことが示されている。しかし子どものナッツ摂取に関する知見はごくわずか。子どもの健康とナッツ摂取の研究の大多数は、ナッツによるアレルギーというマイナスの面ばかり注目されている。今回紹介する論文は、この状況を背景に、既報の研究を対象とするシステムティックレビューによって何らかのプラスの面が認められないかを検討した報告だ。

### カフェインが胎児の脳に影響を及ぼす？

リンク DE ダイエット – 2021/2/10（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.2.10, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=74238&-lay=lay&-Find.html>

妊娠中に摂取したカフェインが重要な脳の経路を変化させ、子供の後年の行動上の問題につながる可能性があることがわかった、という米国ロチェスター大学医療センターからの研究報告。研究チームは、9-10歳の数千件の脳スキャンを分析し、子宮内でカフェインにさらされた子供たちの脳構造の変化を明らかにした。-----

## ラクトフェリン摂取で冬の急性胃腸症状抑制、成人でも確認—信州大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2021/2/16

<http://www.qlifepro.com/news/20210216/lactoferrin.html>

### ラクトフェリン 1日 200mg/600mg 摂取で、急性胃腸症状の有症率が有意に低下

信州大学は2月3日、ラクトフェリン配合錠菓の摂取が保育園、幼稚園職員の冬の急性胃腸症状に与える影響を調査し、ラクトフェリンを1日200mgまたは600mg摂取することで、急性胃腸症状の有症率が有意に低下することを確認したと発表した。この研究は、同大医学部衛生学公衆衛生学教室の野見山哲生教授らと、松本市、森永乳業の研究グループによるもの。研究成果は、「International Journal of Environmental Research and Public Health 誌」に掲載されている。-----

## ■ その他の注目研究・技術情報

### プロバイオティクスまたはプレバイオティクス？「腸」の健康の複雑な世界を探る

リンク DE ダイエット – 2021/2/12（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.2.12, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=74261&-lay=lay&-Find.html>

胃腸管全体の内部にある酵素（胆汁酸塩加水分解酵素）のレベルを測定する非侵襲的画像診断ツールを開発した、という米国ミズーリ大学からの研究報告。-----

**同時発信の「英文記事情報」の方でも、以下の論文情報としてご紹介しております。**

「Science Advances」掲載論文（オープンアクセス）：「Noninvasive imaging and quantification of bile salt hydrolase activity: From bacteria to humans」

<https://advances.sciencemag.org/content/7/6/eaaz9857>

### 大腸がんのリスクにおける食事の役割

リンク DE ダイエット – 2021/2/18（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.2.18, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=74376&-lay=lay&-Find.html>

大腸がんリスクの低下と食物繊維、食事性カルシウム、ヨーグルトの摂取量の増加、およびアルコールと赤身肉の摂取量の低下との関連について説得力のあるエビデンスが見つかった、という米国ユタ大学などからのアンブレラレビュー。-----

## **運動後の回復を促す四つの「R」4R 栄養戦略とは？ 文献レビューからの考察**

スポーツ栄養 WEB - 2021/2/17 <https://sndj-web.jp/news/001198.php>

運動後の回復をサポートする栄養戦略を、「4R」というキーワードでまとめて論説したレビュー論文が公開された。4Rとは、「R」で始まる四つの単語のことだ。その中の「Refuel（補給）」については、新しい世代の糖質にもスポットを当てている。-----

## **2000年～2018年のスポーツ栄養関連の研究を分析 最も多かった研究テーマは？**

スポーツ栄養 WEB - 2021/2/18 <https://sndj-web.jp/news/001199.php>

スポーツ栄養学の近年の研究テーマの傾向を、計量書誌学的に解析した結果が国際スポーツ栄養学会の「Journal of the International Society of Sports Nutrition」に掲載された。主要な研究テーマとして18領域が抽出され、トップ3は、「筋肉量の増加とサプリメント摂取」、「炭水化物代謝」、「酸化ストレスとサプリメントの利用」だった。また、研究報告の件数は経年的に増加が続いているが、基礎研究の占める割合はすべての領域で大きく低下しているという。-----

## **寒い所で運動すると脂肪燃焼が増える**

CareNet - 2021/2/11 <https://www.carenet.com/news/general/hdn/51614>

同じ運動でも、寒い場所で行った方が温かい場所で行うよりも脂肪燃焼量が多いことを示したデータが報告された。この研究では、その差は約4倍に上ったという。ローレンシャン大学（カナダ）のStephanie Munten氏らの研究によるもので、詳細は「Journal of Applied Physiology」に12月3日掲載された。-----

## **揚げ物の摂取で心血管疾患リスクが増大**

CareNet - 2021/2/11 <https://www.carenet.com/news/general/hdn/51612>

揚げ物を食べると、心筋梗塞や脳卒中などの心血管疾患（CVD）のリスクが高まること、が、深圳大学健康科学センター（中国）のPei Qin氏らによる新たな研究で示された。揚げ

物の摂取量が週に1サービング（114g）増えるごとにCVDリスクが増大することが明らかになったという。この報告は、「Heart」に1月19日掲載された。-----

## **脂肪細胞における GPRC6A シグナル不全が肥満に関与することを発見 —九大ほか**

QLifePro 医療ニュース - 2021/2/12

<http://www.qlifepro.com/news/20210212/obesity-3.html>

### **脂肪細胞における GPRC6A シグナルの脂肪蓄積制御メカニズムを解析**

九州大学は2月10日、脂肪細胞における GPRC6A シグナル不全が脂肪の分解を抑制し、食餌誘発性の肥満とそれに起因する代謝異常を引き起こすことを明らかにしたと発表した。この研究は、同大大学院歯学研究院 OBT 研究センターの向井悟学術研究員（研究当時、現東亜大学医療学部准教授）、溝上顕子准教授、福岡歯科大学口腔医学研究センターの平田雅人客員教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Journal of Biological Chemistry」に掲載されている。-----

## **夕食の摂取頻度と肥満の関連を明らかに—阪大**

QlifePro 医療ニュース - 2021/2/8

<http://www.qlifepro.com/news/20210208/obesity-2.html>

### **阪大学生 2万6,433人の入学前1年間の朝食、昼食、夕食の頻度と在学期間の体重変化を評価**

大阪大学は2月2日、夕食を食べない大学生は体重増加・肥満のリスクが高いことを示し、夕食の摂取頻度と肥満の関連を世界で初めて明らかにしたと発表した。この研究は、同大キャンパスライフ健康支援センターの山本陵平准教授と守山敏樹教授らの研究グループによるもの。研究成果は、国際科学誌「Nutrients」にオンライン掲載されている。-----

2/4は世界対がんデー。食によるアプローチで予防の重要性を

## **論文『がんにおける食とマイクロRNAの関係性とその可能性』が 国際学術誌 Seminars in Cancer Biology に掲載されます**

キューピー株式会社 - 2021/2/4 <https://www.kewpie.com/newsrelease/2021/2043/>

キューピー株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役 社長執行役員：長南 収、以下キューピー）は、食生活の提案でがん発症リスクを低減することを目的として、2013年から東京医科大学の落谷孝広教授（当時、国立がん研究センター研究所 分子細胞治療研究分野 分野長）と共同研究を進めています。この度、論文『がんにおける食とマイクロRNAの関

係性とその可能性』が、国際学術誌 Seminars in Cancer Biology に掲載されることが決定し、それに先立ち 1 月にオンラインで公開されました。-----

## **周期的な毛包再生を可能とする上皮性幹細胞の増幅と特定**

—毛包器官再生医療への応用とその実現に期待—

理化学研究所 - 2021/2/10 [https://www.riken.jp/press/2021/20210210\\_3/index.html](https://www.riken.jp/press/2021/20210210_3/index.html)

理化学研究所（理研）生命機能科学研究センター器官誘導研究チームの辻孝チームリーダー、武尾真上級研究員らの共同研究グループは、毛包再生能力を維持したまま毛包幹細胞を生体外で 100 倍以上増幅する培養方法を確立し、さらに長期間にわたる周期的な毛包再生に必要な幹細胞集団を明らかにしました。

本研究の成果は、発生生物学など基礎的研究に貢献するとともに、次世代器官再生医療である毛包再生医療を実現すると期待できます。-----

## **加齢に伴う脱毛の原因が「幹細胞分裂」にあることを発見—東京医歯大ほか**

QLifePro 医療ニュース - 2021/2/16

<http://www.qlifepro.com/news/20210216/aging-hair-loss.html>

### **毛包の再生と老化を司る幹細胞分裂タイプの存在や、分子基盤は？**

東京医科歯科大学は 2 月 12 日、加齢に伴う脱毛の原因が幹細胞分裂にあることを突き止めたと発表した。この研究は、同大難治疾患研究所・幹細胞医学分野の松村寛行助教と西村栄美教授（東京大学・医科学研究所兼任）らの研究グループが、横浜市立大学分子細胞生物学分野、フランス国立科学研究センターなどとの共同研究として行ったもの。研究成果は、「Nature aging」のオンライン版に掲載されている。

## **クイーンメアリー大、Wi-Fi 電波を利用して感情検出する AI を発表！**

Techable - 2021/2/14 <https://techable.jp/archives/148221>

Google がカメラのみで心拍や呼吸を測定する技術を実用化したように、AI を活用すれば生体データの取得にセンサーを身に着ける必要すらなくなりそうだ。

このほどロンドンのクイーンメアリー大学の研究者らは、レーダーや Wi-Fi による無線信号から感情を検出するアプローチを発表した。ディープラーニングを用いた同アプローチなら、職場や家庭にすでにあるデバイスを利用して、日常生活を送りながらの健康管理が可能になる。-----

<https://www.qmul.ac.uk/media/news/2021/se/scientists-propose-new-way-to-detect-emotions-using-wireless-signals.html#>

## ペンシルベニア州立大のウェアラブルセンサー、目や口に着けリアルタイムでデータ収集

TECHABLE - 2021/2/14 <https://techable.jp/archives/148226>

-----。ペンシルベニア州立大学の研究者は、目や口に装着してリアルタイムでデータを送信できるセンシングデバイスを開発中だ。同デバイスは、健康状態のモニタリングとともに薬剤の投与も可能にする。-----

**次の記事は、見出しと URL のみのご紹介となります。**

## ナッツ業界に朗報 高精度の光選別機 サタケ

食品新聞 - 2021/2/12 <https://shokuhin.net/40303/2021/02/10/sonota/kikai/>

### ■ その他

今回は特にありません。

以上

## 健康食品等に関する 日本語記事情報（2021年3月10日号）

（3月5日締め）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

**なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。**

英文記事情報については別途お送りいたします。

**記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。**

## ○ 記事一覧

記事の見出しと冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております。

## ■ 安全性関連情報

### 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 被害関連情報および素材情報データベース

2021年3月更新中

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2299>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2297>

素材情報データベース（新規） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2298>

パイナップル（210301） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4489.html>

2021年2月分

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2289>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2288>

素材情報データベース（新規） 2月はありませんでした。

### 食品安全情報（化学物質） No. 5/ 2021（2021. 03. 03）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/2021/foodinfo202105c.pdf>

**全リスト**

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

次の情報は、「英文記事情報」前号（2月24日発信）の〈海外公的機関等に関する情報〉でご紹介したのですが、「食品安全情報 blog2」でより詳しく整理されておりますので、改めてご紹介いたします。表示されたページ全体の上から1/4ほどから記載されています。

### 食品安全情報 blog2（2021年3月3日）

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2021/03/03/173024>

[FDA]FDAは議会報告書を受けてベビーフードの有害元素についての疑問に応える

### 高果糖食は免疫系の損傷を引き起こす可能性がある？

リンク DE ダイエット – 2021/3/4 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.3.4, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=74485&lay=lay&-Find.html>

フルクトース (果糖) を多く含む食事を摂取すると、免疫系の適切な機能が妨げられる可能性があるかもしれない、という英国スウォンジー大学からの研究報告。

**追記: 同時発信の「英文記事情報」でも以下の論文情報としてご紹介しております。**

「Nature Communications」掲載論文 (オープンアクセス) : 「Fructose reprogrammes glutamine-dependent oxidative metabolism to support LPS-induced inflammation」

<https://www.nature.com/articles/s41467-021-21461-4>

## ■ 不適切な表示、販売など (行政機関情報、その他)

### インターネットにおける健康食品等の虚偽・誇大表示に対する要請について (令和2年10月~12月)

消費者庁 - 2021/3/5

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/extravagant\\_advertisement/assets/extravagant\\_advertisement\\_210305\\_0001.pdf](https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/extravagant_advertisement/assets/extravagant_advertisement_210305_0001.pdf)

----

消費者庁では、令和2年10月から12月までの期間、インターネットにおける健康食品等の虚偽・誇大表示の監視を実施しました。

この結果、インターネットにおいて健康食品等を販売している150事業者による152商品の表示について、健康増進法第65条第1項の規定に違反するおそれのある文言等があったことから、これらの事業者に対し、-----

### 虚偽・誇大なアフィリエイト広告に関する注意喚起

消費者庁 - 2021/3/1 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/023269/>

アフィリエイト広告を見て、通信販売の化粧品を購入した消費者から、「シミが消えるなどと表示されていたので信じて購入したが、表示されていたような効果はなかった。」といった相談が、各地の消費生活センターなどに数多く寄せられています。

消費者庁と長野県が合同で調査を行ったところ、-----

## ■ 行政・法令関連情報 (その他)

## 「食薬区分における成分本質（原材料）の取扱いの例示リスト」の一部改正に関する意見募集について

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=495200477&Mode=0>

### ■ 海外公的機関情報

今回は、特に見当たりませんでした。

### ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

#### 富士経済、機能志向食品（サプリメント）の国内市場調査、2020年市場見込は前年比0.6%増の9483億円に

マイライフニュース - 2021/2/19

<https://www.mylifenews.net/data/2021/02/2020069483.html>

総合マーケティングビジネスの富士経済は、消費者の感染症予防意識の高まりを背景に注目を集めている機能志向食品（サプリメント）の市場を調査した。その結果を「H・B フーズマーケティング便覧 2021 No.2 機能志向食品編」にまとめた。-----

### ■ 具体的素材・成分、製品情報（市場予測・動向等）

#### 食品と開発 3月号 記事紹介—改めて考えたい「クロレラ」

健康メディア.com - 2021/3/3 [https://www.kenko-media.com/food\\_devlp/archives/4905](https://www.kenko-media.com/food_devlp/archives/4905)

『食品と開発』3月号では健康食品素材・機能性素材についての特集を掲載しております。そのなかから「クロレラ」についての記事を紹介します。

##### 【市場動向】

健康食品として長い実績を持つクロレラは、中高年層には絶大な支持を得ており、安定した市場を形成している。サプリメントが中心となるが、青汁やスムージーにも配合され、食品分野では抹茶の補色で使われている-----

## ■ 企業動向、注目ビジネス情報

### 東洋製罐グループ、株式会社おいしい健康と資本・業務提携

～食と健康のデータプラットフォームを構築し、食のバリアフリー実現へ～

東洋製罐グループホールディングス株式会社 - 2021/3/1

[https://www.e-expo.net/pdf/news2021/20210301\\_tskg-hd.pdf](https://www.e-expo.net/pdf/news2021/20210301_tskg-hd.pdf)

東洋製罐グループは、一般生活者および患者・医療従事者を対象とした”栄養管理のデジタルトランスフォーメーション”事業を展開している株式会社おいしい健康（以下、おいしい健康）と資本・業務提携契約を締結いたしました。-----

### AI食×機能性野菜ナスで「結果」を届けるビジネスプランが令和2年度技術・ブランド・知的財産ビジネスプランコンテスト特別賞を受賞

株式会社ウェルナス - 2021/2/22

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000007.000062426.html>

2021年1月28日、株式会社ウェルナス(本社：東京都港区、以下(株)ウェルナス)は、日本弁理士会が主催する「令和2年度 技術・ブランド・知的財産ビジネスプランコンテスト」において日本弁理士会特別賞を受賞しました。受賞ビジネスプラン名は「機能性野菜ナスで挑戦する健康実現」です。表彰式が、2月26日（金）15:00～16:45にYouTubeライブ配信で開催されますので、ぜひご覧ください（<https://youtu.be/f12Rt3DVk9M>）。-----

### 東京大学高齢社会総合研究機構とフレイル予防に関する共同研究を開始

～地域特性指標の定量化により効果的なフレイル予防の実現を目指す～

株式会社ウェルモ - 2021/2/24 <https://welmo.co.jp/news/archives/1350>

株式会社ウェルモ（代表取締役 CEO 鹿野佑介、以下「ウェルモ」）は、東京大学高齢社会総合研究機構（機構長・未来ビジョン研究センター・教授 飯島勝矢、以下「IOG」）と産学連携により、フレイルの重度化対応のための地域特性指標の策定・定量化に関する共同研究を、2020年（令和2年）10月より開始しました。-----

### 【連載】ベンチャー巡訪記【全記事まとめ】

AnswersNews - 2021/3/4 <https://answers.ten-navi.com/pharmanews/19621/>

製薬業界のプレイヤーとして存在感を高めるベンチャー。注目ベンチャーの経営者を訪ね、創業のきっかけや事業にかける想い、今後の展望などを語ってまいります。-----

## ■ 消費者意識等の調査・分析

今回は、特に見当たりませんでした。

## ■ 機能性素材・成分関連情報（科学的知見を中心に）

### 日光曝露、ビタミンD摂取の双方が呼吸器感染症リスクを抑制 英陸軍のRCTで有意差

スポーツ栄養 WEB - 2021/2/26 <https://sndj-web.jp/news/001215.php>

アスリートと同様に激しい身体活動を行っている軍隊の兵士を対象に行われた研究で、ビタミンDレベルを高めることが感染症のリスクの低下につながるということがわかった。日光曝露、またはビタミンDサプリメントの摂取といういずれの方法も有効であることが、プラセボ対照無作為化二重盲検試験で証明された。-----

### 産業廃棄物から得られたセサミノールがパーキンソン病予防に効果があることを解明！

大阪市立大学 - 2021/2/1 <https://www.osaka-cu.ac.jp/ja/news/2020/210201-3>

#### 本研究のポイント

細胞レベルおよび動物レベルでのパーキンソン病疾患モデルを用いて、産業廃棄物として処理される脱脂ゴマから精製されたセサミノールがパーキンソン病予防効果を有することを解明。-----

### 亜鉛とビタミンCのサプリメント摂取、新型コロナからの回復に影響は？

QLifePro 医療ニュース - 2021/2/25  
<http://www.qlifepro.com/news/20210225/zinc-ascorbic-acid.html>

亜鉛とビタミンCはCOVID-19の症状改善に効果なし

免疫力を高めるとの評があるアスコルビン酸（ビタミン C）と亜鉛だが、これらのサプリメント（サプリ）を摂取しても新型コロナウイルス感染症（COVID-19）からの回復には役立たないとする研究結果が報告された。-----

## アスリートの呼吸器感染症の重症度をプロバイオティクスサプリが軽減メタ解析の結果

スポーツ栄養 WEB - 2021/2/27 <https://sndj-web.jp/news/001216.php>

アスリートの上気道感染症リスクに対するプロバイオティクスサプリメント摂取の影響を、システムティックレビューとメタ解析により検討した結果が報告された。プロバイオティクスサプリは、上気道感染症の罹患リスクや病期期間は抑制していなかったが、重症度スコアや、TNF- $\alpha$ 、IL-6 レベルが低いことと有意な関連が認められたという。

## 黒ウコンのポリメトキシフラボノイドが SIRT1 を活性化する

健康メディア.com - 2021/2/22 [https://www.kenko-media.com/food\\_devlp/archives/4890](https://www.kenko-media.com/food_devlp/archives/4890)

東京大学大学院農学生命科学研究科、常磐植物化学研究所らの研究グループは、黒ウコン由来のポリメトキシフラボノイドがレスベラトロールよりも効果的に「長寿遺伝子由来酵素 SIRT1」を活性化することを実証し、このほど発表した。本研究は、世界的権威ある学術雑誌「Nature」の姉妹紙である「Communications Biology」に掲載される。-----

## ■ その他の注目研究・技術情報

### 肥満リスクと疾病保護に関係する 62 の遺伝子を同定

リンク DE ダイエット – 2021/3/1 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.3.1, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=74462&-lay=lay&-Find.html>

体脂肪の上昇と、肥満によるネガティブな健康影響からの保護効果の両方に関連する遺伝子を明らかにした、というデンマーク・コペンハーゲン大学などからの研究報告。-----

**追記：同時発信の英文記事情報でも以下の論文情報としてご紹介しております。**

「Nature Metabolism」掲載論文：「Genome-wide discovery of genetic loci that uncouple excess adiposity from its comorbidities」

<https://www.nature.com/articles/s42255-021-00346-2>

## 健康な老化と長寿に関係する腸内細菌叢

リンク DE ダイエット – 2021/2/24 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.2.24, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=74416&-lay=lay&-Find.html>

健康的または不健康な加齢の軌跡に関連する腸内細菌叢の明確な特徴を発見した、という米国システム生物学研究所からの研究報告。これを利用して高齢者集団の寿命の予測も可能になるという。-----

**追記：同時発信の「英文記事情報」でも以下の論文情報として紹介しております。**

「Nature Metabolism」掲載論文：「Gut microbiome pattern reflects healthy ageing and predicts survival in humans」 <https://www.nature.com/articles/s42255-021-00348-0>

## 心臓にケトンを与えるのは有益かも？

リンク DE ダイエット – 2021/3/4 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.3.4, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=74484&-lay=lay&-Find.html>

心臓へのケトン供給量を増やすことは、届ける方法に関係なく、心臓病患者に有益である可能性がある、というエビデンスが増えているようだ、というオランダ・フローニンゲン大学医療センターからのレビュー報告。-----

**追記：同時発信の「英文記事情報」でも以下の論文情報としてご紹介しております。**

「Journal of the American College of Cardiology」掲載論文（オープンアクセス）：  
「Therapeutic Potential of Ketone Bodies for Patients With Cardiovascular Disease: JACC Focus Seminar」

<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0735109721001947>

## 精製穀物は心臓発作と死亡リスクの上昇と関連？

リンク DE ダイエット – 2021/2/24 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.2.24, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=74417&-lay=lay&-Find.html>

クロワッサンや白パンなどの精製穀物を大量に摂取すると、主要な心血管系疾患、脳卒中、死亡のリスクが高くなるようだ、というカナダ・サイモンフレイザー大学からの研究報告。-----

**追記：前号（2月24日発信）の「英文記事情報」でも、以下の論文情報として紹介しております。**

「The BMJ」掲載論文（オープンアクセス）：「Associations of cereal grains intake with cardiovascular disease and mortality across 21 countries in Prospective Urban and Rural Epidemiology study: prospective cohort study」

<https://doi.org/10.1136/bmj.m4948>

## 5つの食事スタイルの持久力パフォーマンスへの有益性と有害性をまとめたレビュー

スポーツ栄養 WEB - 2021/2/23 <https://sndj-web.jp/news/001211.php>

高脂肪食、時間制限食、菜食主義食など、異なる5つの食事スタイルを、持久系スポーツアスリートが実践した場合の有益性と有害性をまとめた論文が発表された。1983年以降に発表された57報の論文に基づくナラティブレビューだ。5つの食事スタイルはすべて、持久系スポーツに適用可能だが、それぞれに注意すべきポイントがあるようだ。-----

## 筋グリコーゲン再合成速度を、炭水化物単独と炭水化物+タンパク質で効果を比較検討

スポーツ栄養 WEB - 2021/2/24 <https://sndj-web.jp/news/001212.php>

運動後の筋肉グリコーゲン再合成を促進するために、炭水化物のみの摂取と、タンパク質も摂取した場合のいずれが有利なのかというテーマに関し、これまで多くの研究が行われてきている。それらの研究報告を対象に実施された、システマティックレビューとメタ解析が報告された。-----

**次の情報は、英文記事情報の前号（2月24日発信）ですすでにご紹介しましたが、この記事は詳細にまとめられておりますので、再度ご紹介いたします。**

## クレアチンサプリに関する一般的な質問と誤解 国際スポーツ栄養学会がQ&Aを発表

スポーツ栄養 WEB - 2021/3/2 <https://sndj-web.jp/news/001220.php>

国際スポーツ栄養学会の「Journal of the International Society of Sports Nutrition」に、「クレアチンサプリメントに関する一般的な質問と誤解（Common questions and misconceptions about creatine supplementation: what does the scientific evidence really show?）」というタイトルのレビュー論文が掲載された。-----

## **特集「クレアチン」 第4回「中高齢者のクレアチン摂取効果」**

スポーツ栄養 WEB - 2021/3/5 <https://sndj-web.jp/news/001225.php>

サプリメントを効果的かつ安全に活用するためには、サプリメントに関する正しい知識が不可欠です。本シリーズでは、スポーツサプリメントの代表格であるクレアチンについて、エビデンスに基づいた情報をテーマ別に取り上げます。第4回目は中高齢者のクレアチン摂取により期待される効果を試験結果と併せてご紹介します。-----

## **アスリートにとっての必須アミノ酸「ロイシン」 筋肉コンディショニング効果のエビデンス**

スポーツ栄養 WEB - 2021/3/3 <https://sndj-web.jp/news/001226.php>

大多数のスポーツにおいて、筋肉は少ないより多いほうがよく、筋力は低いよりも高いほうがパフォーマンス発揮に有利だ。そのため、多くのアスリートが、筋肉量を増大・維持し、筋力を高めるための、何らかのトレーニングを続けている。スポーツを実践している人、あるいは筋力トレーニングをする人なら、「ロイシン」という栄養素の名前を一度ならず耳にしたことがあるのではないだろうか？今回は、そのロイシンの働きについて簡単にまとめる。-----

## **褐色脂肪細胞の燃焼を促す新たなメカニズムを解明、肥満改善に期待—京大**

QLifePro 医療ニュース - 2021/2/26

<http://www qlifepro.com/news/20210226/metabolic.html>

マイクロ RNA-33 欠損マウスで肥満、褐色脂肪細胞との関連は？

京都大学は2月17日、脳内のマイクロ RNA-33 (miR-33) が、適応熱産生に重要であることを見出したと発表した。この研究は、同大大学院医学研究科の堀江貴裕助教、尾野亘准教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Nature Communications」に掲載されている。-----

## **血液脳関門における薬物の脳移行性を予測する新システムを開発—NIBIOHN**

QLifePro 医療ニュース - 2021/3/2 <http://www qlifepro.com/news/20210302/p-gp.html>

P-gp の化合物輸送能の考慮で、高精度な予測が可能に

医薬基盤・健康・栄養研究所（NIBIOHN）は2月24日、血液脳関門（BBB）におけるP-糖タンパク質（P-gp）の化合物輸送能を考慮した、薬物の脳移行性が予測可能な新たなモデルの開発に成功し、このモデルに基づき構築したシステムをアプリケーションとしてウェブ上に公開したと発表した。この研究は、同大研究所 AI 健康・医薬研究センターの水口賢司センター長、バイオインフォマティクスプロジェクトの渡邊怜子プロジェクト研究者らの研究グループによるもの。研究成果は、米国科学雑誌「Journal of Medicinal Chemistry」に掲載されている。-----

## 「光遺伝学」で病的肥満を解消、光の刺激で満腹感

米国テキサスの大学グループが小型デバイスを開発

Beyond Health（日経 BP 総合研究所） - 2021/2/25（星 良孝＝ステラ・メディックス）

<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/news/overseas/00075/>

## 買い物データから栄養バランスのとれた最適な買い物を提案する

### 「SIRU+」

TECHABLE - 2021/2/22 <https://techable.jp/archives/148860>

「自分の栄養バランスが気になる」「好き嫌いが多い家族の健康が心配」という人は少なくないだろう。毎日何を食べたか、どんな栄養を摂ったかなどを把握するには継続的な記録作業が必要で、なかなか実践できないという人もいるのではないだろうか。

そんな人には、シルタス株式会社が提供するキャッシュレス決済連動の栄養管理アプリ

「SIRU+（シルタス）」が便利そう。今回は、買い物をするだけで栄養管理ができ、最適なアドバイスももらえるというこのアプリを紹介していこう。-----

## データ活用コンサルや需要予測技術で食品サプライチェーン DX を支援

MONOist - 2021/2/22 <https://monoist.atmarkit.co.jp/mn/articles/2102/22/news031.html>

ブレインパッドは2021年2月2日、同社のデータ活用コンサルティングと需要予測技術を活用し、伊藤忠商事と日本アクセスが進めている「食品サプライチェーン DX」を支援することを発表した。-----

## 製造業の AI 活用で失敗しないコツ

IOT - 2021/2/18 <https://iotnews.jp/archives/155370>

近年、AIに関する注目が高まっている。AIが万能であり、人間のように思考したり、判断したりできると考える人もいるようだが、実際は、そういった複雑なことを実現するのは

簡単ではない。しかも、AI を利用しようとする、まず、データを集め、分析し、AI モデルといわれるアルゴリズムを作るという流れが必要で、専門的な知識が必要だ。  
本稿では、AI を活用するためのポイントを日本システムウェア株式会社（NSW）の事例とともに紹介する。-----

## FRONTEO と AGC、技能伝承・組織知形成に役立つ AI ナレッジシェアシステム「匠 KIBIT」を販売開始

IOT - 2021/2/16 <https://iotnews.jp/archives/164199>

株式会社 FRONTEO と AGC 株式会社は、FRONTEO が保有する言語解析 AI エンジン「KIBIT」を活用した技能伝承システムの開発を 2017 年からすすめており、2020 年 7 月には、製造業における技能伝承や企業内での組織知形成に役立つ AI ナレッジシェアシステム「匠 KIBIT」を発表している。-----

## ■ その他

### 「健康寿命延伸のための提言」を発表 糖尿病などの疾患を横断的に予防 国立がん研究センターなど 6 機関が連携

糖尿病ネットワーク - 2021/2/22 <https://dm-net.co.jp/calendar/2021/033230.php>

国立がん研究センターなど国立高度専門医療研究センター6 機関が、日本人の健康寿命延伸のために必要な予防行動などについて、目標を提言にまとめて発表した。-----

### トクホ（特定保健用食品）のお茶飲み比べ 11 選 & 効果的な飲み方 [管理栄養士監修] (1/3)

Melos Media - 2021/2/22 <https://melos.media/wellness/60528/>

-----。

トクホの飲料の中でも手軽にとりやすいのが、緑茶や麦茶、烏龍茶などのお茶でしょう。今回はコンビニやドラッグストアで買えるトクホのお茶 11 種類を効能のタイプ別に分類。実際に試飲して、気になる苦みや渋みの有無、飲み心地などをお伝えします。

### 野菜ジュースって野菜の代わりになる？ダイエットにおすすめなのはどれ？18 種類を比較 (1/3)

Melos Media - 2021/2/22 <https://melos.media/wellness/36076/>

-----。

今回は近くのコンビニやスーパーで買える 200ml 紙パックタイプのなかから、野菜ジュースの大手『KAGOME』と『伊藤園』の商品をチョイス。のどごし・味・原材料・栄養成分について比べました。-----

以上

## **健康食品等に関する 日本語記事情報（2021年3月25日号）**

（3月22日締め）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。  
（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

*なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。*

英文記事情報については別途お送りいたします。

**記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。**

### ○ 記事一覧

記事の見出しと冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております。

## ■ 安全性関連情報

### **厚生労働省と東京都が医薬品成分（メラトニン）を含む製品に注意喚起（210316）**

「健康食品の安全性・有効性情報」（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所） - 2021/3/16 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4526.html>

### ■ 注意喚起および勧告内容

2021年3月12日、厚生労働省と東京都が医薬品成分（メラトニン）を含む製品「HEMP Baby CBD グミ」（右記写真：東京都報道発表資料より加工転載）に注意喚起。東京都は当該製品を使用しないように、また、当該製品による健康被害が疑われる場合は、速やかに医療機関を受診するように勧告。

## 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 被害関連情報および素材情報データベース

2021年3月更新中

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2299>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2297>

素材情報データベース（新規） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2298>

2021年2月分

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2289>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2288>

素材情報データベース（新規） 2月はありませんでした。

## 食品安全情報（化学物質） No. 6/ 2021（2021. 03. 17）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/2021/foodinfo202106c.pdf>

目に付いた見出し：

【FDA】 FDA の、有害元素を含む食品中化学ハザードについての企業への文書と、FDA の赤ちゃんや小さい子供の食品の安全性向上のために努力について更新

【BfR】 BfR はヘンプ含有食品の評価基準として ARfD を薦める

***BFR：ドイツ連邦リスク評価研究所***

**全リスト**

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

## 食品安全情報 blog2（2021/3/10）

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2021/03/10/174340>

***追記：2番目の見出し、前号でもご紹介したベビーフード中の重金属に係る関連情報です。***

[FDA] FDA の、有害元素を含む食品中化学ハザードについての企業への文書と、FDA の赤ちゃんや小さい子どもの食品の安全性向上のために努力について更新

## 食品安全情報 blog2 (2021/3/16)

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2021/03/16/175938>

**追記：最初の見出しです。英国政府に化学物質の毒性に係る問題について提言などを行うCOT（英国毒性委員会）による声明の内容がまとめられています。**

[COT] 6ヶ月から5才の子どもの植物ベースの飲料についての包括的声明概要

## ■ 不適切な表示、販売など（行政機関情報、その他）

### マクロフューチャー株式会社に対する景品表示法に基づく措置命令について

消費者庁 - 2021/3/9 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/023248/>

消費者庁は、本日、マクロフューチャー株式会社に対し、同社が供給する「マクロ元気」と称する食品及び「マクロ元気乳酸菌 1250 億プラス」と称する食品に係る表示について、景品表示法に違反する行為(同法第 5 条第 1 号(優良誤認)に該当)が認められたことから、同法第 7 条第 1 項の規定に基づき、措置命令を行いました。-----

### 不祥事・炎上はなぜ絶えない？ スタートアップ企業のトラブル事案から考える、危機管理広報の在り方

ITMedia - 2021/3/12 <https://www.itmedia.co.jp/business/articles/2103/12/news022.html>

2021 年 2 月下旬、スタートアップ企業におけるコンプライアンスやガバナンス体制の在り方と、危機管理広報の重要性について深く考えさせられる出来事が頻発した。

一つは、美容や健康にまつわるサプリメントを販売する複数のスタートアップ企業の宣伝にまつわるトラブルだ。彼らが扱うサプリメントは法律上「健康食品」に分類されるため、-----

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

今回は、特に見当たりませんでした。

## ■ 海外公的機関情報

今回は、特に見当たりませんでした。

## ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

### 富士経済、加工食品の市場調査、2020年見込では嗜好飲料や炭酸飲料が縮小、新しい生活様式に適応した提案が求められる

マイライフニュース - 2021/3/12 <https://www.mylifenews.net/data/2021/03/2020-3.html>

総合マーケティングビジネスの富士経済は、レジャー施設・外食店の休業や営業時間短縮に伴い外食業態向けなど業務用が縮小している品目と在宅時間の増加によって需要が増加する品目で大きく明暗が分かれている果実飲料、炭酸飲料、乳性飲料、嗜好飲料、健康飲料などの市場を調査した。その結果を「2021年 食品マーケティング便覧 No.4」にまとめた。-----

## ■ 具体的素材・成分、製品情報（市場予測・動向等）

### NMN、市場形成が本格化 原料価格下がり、製品開発を後押し

健康メディア.com - 2021/3/15 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15157](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15157)

若返りサプリメント”として米国や中国などで人気となっているNMNの市場形成が本格化している。国内では昨春に「非医薬品リスト」に追加され、注目度が上昇。昨年11月の「食品開発展」、今年1月の「健康博覧会」の会場でもNMN関連商材の出品が目立った。以前に比べ原料価格が下がり、商品開発が活発化。今年に入り、大手企業がNMNサプリメントの販売に乗り出すなど、海外に続き日本での市場形成が加速している。-----

### スギ薬局、ウエルシア薬局、ツルハドラッグが相次いで販促強化する理由とは

ダイヤモンド・チェーンストア・オンライン - 2021/3/15

<https://diamond-rm.net/promotion/77836/>

昨年11月に機能性表示食品として新たに発売された「iMUSE」ブランド商品が、発売直後から販売実績を大きく伸ばしている。日本で初めて免疫機能をうたう機能性表示食品であり、新型コロナの影響で、感染症から身を守る免疫機能への関心が高まっていることも追い風となった。発売後から積極的に同商品を取り扱っているドラッグストア3社の販売動向や店頭事例を取材した。-----

## **TPC マーケティングリサーチ、食系企業の乳酸菌事業戦略について調査、2019 年度乳酸菌応用製品市場は前年度比 0.2%増の 7452 億円に**

マイライフニュース - 2021/3/22

<https://www.mylifenews.net/data/2021/03/tpc2019027452.html>

TPC マーケティングリサーチは、乳業メーカーおよび飲料メーカーの乳酸菌事業戦略について調査を実施した。その結果、2019 年度における乳酸菌応用製品市場は、前年度比 0.2%増の 7452 億円となった。-----

## **■ 企業動向、注目ビジネス情報**

### **ブレインスリープと NTT 東日本、睡眠におけるデータ分析基盤の構築および睡眠障害診断の AI 予測に関する実証実験を開始**

IoT News - 2021/3/15 <https://iotnews.jp/archives/165757>

-----。株式会社ブレインスリープと東日本電信電話株式会社（以下、NTT 東日本）は、睡眠におけるデータ分析基盤の構築および睡眠障害診断の AI 予測に関する実証実験を共同で開始した。内容は以下の通り。-----

## **■ 消費者意識等の調査・分析**

### **TPC マーケティングリサーチ、「生活習慣病対策の実態とニーズ」について調査、「健康診断」「年齢」「体重の増加」で生活習慣病を気にするように**

マイライフニュース - 2021/3/13 <https://www.mylifenews.net/data/2021/03/tpc-439.html>

TPC マーケティングリサーチは、現在、生活習慣病を気にしており、気になる健康数値の維持・改善のために対策に取り組んでいる 30~60 代の男女 824 名を対象に、生活習慣病対策の実態について調査を実施した。その結果、生活習慣病を気にするようになったきっかけは、「健康診断」「年齢」「体重の増加」が多いことがわかった。-----

## **■ 機能性素材・成分関連情報（科学的知見を中心に）**

## 運動誘発性筋損傷からの回復のための栄養戦略 ケトン食やサプリのエビデンスは？

スポーツ栄養 WEB - 2021/3/9 <https://sndj-web.jp/news/001219.php>

運動誘発性筋損傷（exercise-induced muscle damage ; EIMD）に関して、そのメカニズム、評価方法、回復の促進などを一報にまとめて解説したレビュー論文が、「European Journal of Applied Physiology」に掲載された。多岐にわたる内容から、栄養戦略に関する部分を中心に要旨を紹介する。-----

## スポーツ時の疲れを防ぐシスチン・グルタミン ミックスとは？ その機序と根拠を解説

スポーツ栄養 WEB - 2021/3/15 <https://sndj-web.jp/news/001235.php>

-----。実は‘疲れ’、つまり「疲労」には学術的な定義があつて、「過度の肉体的および精神的活動、または疾病によって生じた独特の不快感と休養の願望を伴う身体の活動能力の減退状態」とされている。これをお読みになると、トレーニングの後に感じる疲労感も、この定義によく当てはまることに気づかれるだろう。-----

## ■ その他の注目研究・技術情報

### 腸のマイコビオームは加工食品の代謝に影響を与える

リンク DE ダイエット – 2021/3/9（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.3.9, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=74531&lay=lay&-Find.html>

腸内細菌叢の研究は、細菌に焦点が当てられており、他の微生物はほとんど無視されてきたが、今回アラバマ大学の研究チームは、マウスを用いた動物実験で、腸内の真菌（カビや酵母）が宿主と食事を繋ぐ重要な役割を指摘している。-----

**追記：同時配信の「英文記事情報（2021年3月25日号）」でも以下の記事情報としてご紹介しております。**

「Communications Biology」掲載論文（オープンアクセス）：「The gut mycobiome of healthy mice is shaped by the environment and correlates with metabolic outcomes in response to diet」 <https://www.nature.com/articles/s42003-021-01820-z>

## すべての HDL-コレステロールが健康的であるとは限らない！？

リンク DE ダイエット – 2021/3/12 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.3.12, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=74546&-lay=lay&-Find.html>

HDL 粒子の小さい人だけが実際には心筋梗塞のリスクの低下に関連しているようだ、というスペイン・ホスピタルデルマール医学研究所からの報告。-----

**追記：前号の「英文記事情報 (2021 年 3 月 10 日号)」でも、以下の記事情報としてご紹介しております。**

「Metabolism, Clinical and Experimental」掲載論文 (オープンアクセス) : 「High-density lipoprotein characteristics and coronary artery disease: a Mendelian randomization study」

[https://www.metabolismjournal.com/article/S0026-0495\(20\)30215-8/fulltext](https://www.metabolismjournal.com/article/S0026-0495(20)30215-8/fulltext)

## 研究チームは、満腹感に関連する代謝フットプリントを同定？

リンク DE ダイエット – 2021/3/16 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.3.16, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=74567&-lay=lay&-Find.html>

血中の特定の代謝物が、食事を摂取した後に知覚される満腹感と関連しているかもしれない、というスペインのロビラ・イ・ビルジリ大学からの研究報告。-----

**追記：前号 (2021 年 3 月 10 日発信) の「英文記事情報」で以下の論文情報としてご紹介しております。**

「Nutrients」掲載論文 (オープンアクセス) : 「Circulating Metabolites Associated with Postprandial Satiety in Overweight/Obese Participants: The SATIN Study」

<https://www.mdpi.com/2072-6643/13/2/549>

## 認知症などの病態解明に期待 世界初、空間認識を支える脳情報の流れを解明

大阪市立大学 - 2021/3/11 <https://www.osaka-cu.ac.jp/ja/news/2020/210311>

### 本研究のポイント

◇動物の生存にとって重要な空間認識において、海馬で処理される空間情報が下流の脳領域群へどのように分配・伝達されるかについてはこれまで不明であった。

◇「場所」「移動スピード」「道順」といった多様な空間情報は、海馬から海馬台を経て下流の4箇所の脳領域へと、領域選択的・非選択的に伝達されることを解明した。

◇海馬を中心とした記憶・学習システムの動作原理解明や、海馬の機能異常が原因で起きる疾病の解明につながることを期待される。

-----

## **腸内細菌由来「D-アミノ酸」の代謝が宿主の腸管免疫を制御—慶大ほか**

QlifePro 医療ニュース - 2021/3/5

<http://www.qlifepro.com/news/20210305/d-alanine.html>

### **D-アミノ酸が宿主の生理機能に与える影響は？**

慶應義塾大学は3月4日、腸内細菌由来のD-アミノ酸の代謝が宿主の腸管免疫を制御していることを発見したと発表した。この研究は、同大医学部薬理学教室の鈴木将貴特任助教、笹部潤平専任講師、安井正人教授らの研究グループと、同内科学（消化器）教室の金井隆典教授、米ハーバード大学メディカルスクールのMatthew Waldor教授、実験動物中央研究所の伊藤守所長、九州大学大学院薬学研究院の浜瀬健司教授らの共同研究グループによるもの。研究成果は、「Science Advances」オンライン版に掲載されている。-----

## **肝・筋の代謝制御ネットワークをマウスで構築、肥満による制御異常を解明—東大ほか**

QlifePro 医療ニュース - 2021/3/12

<http://www.qlifepro.com/news/20210312/obesity-abnormal-control.html>

### **肥満による臓器連関代謝サイクルの破綻とその制御異常のメカニズムは？**

東京大学は3月10日、マウスモデルを用いた代謝制御ネットワークによる解析から、肥満による臓器連関代謝サイクルの破綻のメカニズムを大規模に明らかにしたと発表した。この研究は、同大大学院新領域創成科学研究科の江上陸大学院生と大学院理学系研究科の小鍛治俊也特任助教、黒田真也教授、新潟大学大学院医歯学総合研究科の幡野敦助教らの共同研究グループによるもの。研究成果は、「iScience」に掲載されている。-----

## **加齢で衰えた脳の神経回路の修復力を回復させるメカニズムを発見—NCNPほか**

QlifePro 医療ニュース - 2021/3/17

<http://www.qlifepro.com/news/20210317/apelin-apj-signaling.html>

髄鞘の脱落、多発性硬化症や健常な高齢者の脳で観察される

国立精神・神経医療研究センター（NCNP）は3月16日、加齢に伴って低下した脳の修復力が、APJ受容体の働きによって回復することを明らかにしたと発表した。この研究は、同センター神経研究所の村松里衣子部長（神経薬理研究部）、大阪大学大学院医学系研究科の山下俊英教授、筑波大学生存ダイナミクス研究センター深水昭吉教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Nature Aging」に掲載されている。-----

## アミロイド低減治療、認知機能改善は認められず／BMJ

CareNet.com - 2021/3/11 <https://www.carenet.com/news/journal/carenet/51842>

アミロイド値の低下と認知機能の変化について報告されている入手可能な試験データをプール解析した結果、薬物治療によりアミロイド値低下は、実質的に認知機能を改善しないことが示された。-----

## 従来比約30%薄肉化、超臨界流体を活用した射出成形容器を開発

MONOist - 2021/3/9 <https://monoist.atmarkit.co.jp/mn/articles/2103/09/news014.html>

凸版印刷は2021年2月24日、超臨界流体を活用し、従来品より約30%薄くした「超薄肉射出成形容器」を発表した。同日より、食品メーカーやトイレタリーメーカー向けのサンプル提供を開始し、2025年度までに関連事業を含めて約10億円の売り上げを目指す。-----

以上

## 健康食品等に関する

### 日本語記事情報（2021年4月号 No.1）

（4月6日締め）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

*なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。*

英文記事情報については別途お送りいたします。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

## ○ 記事一覧

記事の見出しと冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております。

## ■ 安全性関連情報

### 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 被害関連情報および素材情報データベース

2021年4月更新中

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2313>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2310>

素材情報データベース（新規） 4月6日時点ではありません。

2021年3月分

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2299>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2297>

素材情報データベース（新規） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2298>

### 「健康食品」の安全性・有効性情報サイトナビページ

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 - 2021/4/1

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2311>

### 食品安全情報（化学物質）No. 7/ 2021（2021. 03. 31）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2021/foodinfo202107c.pdf>

**注目見出し：**

**前号で、食品安全情報 blog2（2021/3/16）の情報としてご紹介しました。**

【COT】 6ヶ月から5才の子どもの植物ベースの飲料についての包括的声明概要

英国の保健省、公衆衛生庁及び食品基準庁では、乳幼児や幼い子供の食事における植物ベースの飲料の使用に関し、問い合わせの件数が増えている。そのため、英国毒性委員会

（COT）が、これらの年齢層の食事において消費される大豆、アーモンド及びオート麦飲料により引き起こされるリスクの可能性について検討し声明を発表した。

**全リスト**

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

## オランダ国立公衆衛生環境研究所（RIVM）、セントジョーンズワートを含むハーブ製剤のリスク評価について公表

食品安全委員会 食品安全総合情報システム - 2021/3/16

<https://www.fsc.go.jp/fsciis/foodSafetyMaterial/show/syu05570430164>

### ■ 不適切な表示、販売など（行政機関情報、その他）

#### 東京都が令和 2 年度健康食品試買調査結果を公表（210326）

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 - 2021/3/26

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4583.html>

##### ■ 内容

2021 年 3 月 24 日、東京都が令和 2 年度健康食品試買調査結果を公表。

##### ■ 解説

東京都が 2020 年 5 月から 2021 年 3 月に購入した健康食品を対象に調査を行ったところ、店舗（都内の健康食品売場等）で購入した 10 品目中 2 品目、インターネット等の通信販売で購入した 46 品目中 39 品目に不適正な表示・広告がみられた。

#### ティーライフ株式会社に対する景品表示法に基づく措置命令について

消費者庁 - 2021/3/23 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/023546/>

消費者庁は、本日、ティーライフ株式会社に対し、同社が供給する「メタボメ茶」と称するポット用ティーバッグ 30 個入りの食品に係る表示について、消費者庁及び公正取引委員会(公正取引委員会事務総局中部事務所)の調査の結果を踏まえ、景品表示法に違反する行為(同法 5 条第 1 号(優良誤認)に該当)が認められたことから、同法第 7 条第 1 項の規定に基づき、措置命令を行いました。-----

### ■ 行政・法令関連情報（その他）

#### 結果公示：

「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（案）概要」に関するパブリックコメント（意見公募手続）の実施について

e-Gov パブリック・コメント - 2021/3/23

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=185001104&Mode=1>

## 「食品表示基準 Q & A」の一部改正について

消費者庁 - 2021/3/17

第 12 次改正(令和 3 年 3 月 17 日消食表第 115 号)

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/food\\_labeling/food\\_labeling\\_act/assets/food\\_labeling\\_cms101\\_210317\\_13.pdf](https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/food_labeling_act/assets/food_labeling_cms101_210317_13.pdf)

(別紙)新旧対照表[PDF:276KB]

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/food\\_labeling/food\\_labeling\\_act/assets/food\\_labeling\\_cms101\\_210317\\_14.pdf](https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/food_labeling_act/assets/food_labeling_cms101_210317_14.pdf)

## 栄養成分表示に関するリーフレット「栄養成分表示」の英語版が作成されました

消費者庁 ([https://www.caa.go.jp/en/policy/food\\_labeling/](https://www.caa.go.jp/en/policy/food_labeling/))

*これまで当協会のセミナーでもご紹介しておりますがご活用下さい。PDF版は令和元年12月版が最新となっております。*

## 『食品の安全性に関する用語集』（令和 3 年 3 月更新）

食品安全委員会 <http://www.fsc.go.jp/yougoshu.html>

## 【基礎知識 | 新規】2021 年 3 月掲載情報一覧

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 - 2021/3/26

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2308>

- 【基礎知識】健康食品の「有効性」情報の見極め方 ～信頼できる確かな情報とは～ (Ver.210326)
- 【基礎知識】「素材情報データベース」と掲載情報の選定基準 (Ver.210326)

## ■ 海外公的機関情報

今回は特にありませんでした。

## ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

### 富士経済、機能性表示食品・特定保健用食品などの国内市場調査、機能性表示食品は2020年に特定保健用食品の規模を上回る

マイライフニュース - 2021/3/23

<https://www.mylifenews.net/data/2021/03/2020-4.html>

総合マーケティングビジネスの富士経済は、保健機能食品（特定保健用食品、栄養機能食品、機能性表示食品）の国内市場を調査した。その結果を「H・B フーズマーケティング便覧 2021 No.3 機能性表示別市場分析編」にまとめた。-----

### TPC マーケティングリサーチ、生活習慣病関連商品市場について調査、2019年度は前年度比18.4%増の3903.5億円に

マイライフニュース - 2021/3/28

<https://www.mylifenews.net/data/2021/03/tpc201918439035.html>

TPC マーケティングリサーチは、生活習慣病関連商品市場について調査を実施した。その結果、2019年度の生活習慣病関連商品市場は、前年度比18.4%増の3903.5億円となった。-----

### 免疫・抗ロコモ・認知改善など伝統素材に新知見（特集／ローヤルゼリー）

健康産業新聞 - 2021/4/5 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15215](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15215)

古くは不老長寿の妙薬として、現在は健康食品の定番素材として利用されているローヤルゼリー。ビタミン類、必須アミノ酸、ミネラル等が豊富に含まれ、美容サプリからエネルギードリンク、ゼリーまで広く活用されている。2020年度の市場規模は280億円（前年比8%減）と推計され、最盛期と比べると一服感は否めないが知名度の高さは折り紙付き。近年は、脳機能改善、美容、骨・関節サポート、疲労回復、免疫賦活などの有効性が明らかとなり、肌保湿分野では、RJ特有成分のデセン酸を関与成分とした機能性表示食品も登場。また腸管免疫の関係性に着目した研究も進展している。コロナ禍で健康食品への期待が高まる中、RJの利用拡大にも期待が高まっている。-----

### 国際基準のドーピング対策、必要性増す（特集／アンチドーピング）

健康メディア.com - 2021/3/25 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15205](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15205)

アスリートが摂取するサプリメントに、ドーピング成分が混入することは決して許されない。近年はドーピング検査の精度が向上したこともあり、選手はこれまで以上にサプリメントの原材料、製造工程に注意を払うようになった。ただ現実には、海外製サプリや市販薬、漢方薬の一部には、原材料や製造時のコンタミネーションでドーピング成分が混入するケースも。-----

**この記事は、見出しと URL のみのご紹介になります。**

## インドにおける日本食品の商機 現地輸入者の視点から

ジェトロ（日本貿易振興機構） - 2021/3/25

<https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2021/6baf76504edfdea1.html>

## **■ 具体的素材・成分、製品情報（市場予測・動向等）**

### “美味しさと健康”を備え持つ乳酸菌として飛躍（乳酸菌特集、特別インタビュー）

健康メディア.com - 2021/4/5 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15219](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15219)

森永乳業(株)（東京都港区）が開発販売している加熱殺菌乳酸菌『シールド乳酸菌 M-1』。サプリメントに留まらず、飲料や菓子、パンや納豆など幅広い食品への採用が拡大している。乳酸菌の機能性を“健康軸”と表現し、「健康軸」と「おいしさ」を両立させたことで、市場シェアを獲得してきたという。シールド乳酸菌の展開について、同社営業本部食品素材統括部 販売企画グループマネージャーの古田雄一郎氏に聞いた。-----

## **■ 企業動向、注目ビジネス情報**

### 太陽化学、免疫・栄養研究のため京都府立医科大学に寄付講座を開設

健康メディア.com - 2021/4/2 [https://www.kenko-media.com/food\\_devlp/archives/4959](https://www.kenko-media.com/food_devlp/archives/4959)

太陽化学は、京都府立医科大学に4月1日付けで寄附講座「生体免疫栄養学(太陽化学)講座」を開設した。

腸内環境からみた食による生体の免疫や栄養の研究を目的にしたもので、機能性食品の腸内細菌叢やその代謝物への作用を検討し、免疫・栄養学的な知見から健康長寿に向けた科学的エビデンスの確立を目指す。さらに食物繊維やポリフェノールなどによるフレイル・サルコペニア予防法を実証していく。-----

## AI 栄養士が食事のアドバイス 創業 70 数年の食と健康の思いを IT 活用で新たな価値に変革——「あすけん」 天辰次郎氏

ITmedia エグゼクティブ - 2021/4/6

<https://mag.executive.itmedia.co.jp/executive/articles/2104/06/news011.html>

創業 70 数年の食と健康の歴史があるグリーンハウスが、100%出資する「食×テクノロジー」のベンチャー企業である asken。ヘルスケアアプリ「あすけん」の挑戦と成功の要因を紹介する。-----

### ■ 消費者意識等の調査・分析

#### 矢野経済研究所、健康食品に関する消費者アンケート調査、摂取目的は「免疫力の向上」が男性の若年層や年配層・女性の年配層で 2 割を超える

マイライフニュース - 2021/3/25 <https://www.mylifenews.net/data/2021/03/2-4.html>

矢野経済研究所は、健康食品、特定保健用食品、機能性表示食品に関する消費者アンケート調査を実施し、20 代から 70 代以上の消費者における健康状況、機能食品に対する需要などを分析した。-----

#### ヤクルト、ストレス・睡眠と腸の健康意識調査、腸年齢が「実年齢より若い人」はストレスや睡眠悩みが少ない

マイライフニュース - 2021/4/5 <https://www.mylifenews.net/data/2021/04/post-84.html>

ヤクルト本社は、全国 47 都道府県別の 20 代～60 代の働く男女 9400 人を対象に「ストレス・睡眠と腸の健康意識調査」を行った。その結果、腸年齢が「実年齢より若い人」はストレスや睡眠悩みが少ないことがわかった。-----

### ■ 食品、食品成分、機能性素材・成分関連情報（科学的知見中心）

#### 運動の 30 分前に濃いコーヒーを飲むと脂肪燃焼が増加？

リンク DE ダイエット – 2021/3/24 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.3.24, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=74630&-lay=lay&-Find.html>

有酸素運動の 30 分前に、カフェイン (約 3mg/kg 体重、濃いコーヒーに相当) を摂取すると、脂肪燃焼の速度が大幅に増加するかもしれない、というスペイン・グラナダ大学からの研究報告。運動が午後に行われる場合、カフェインの効果が朝よりも顕著であったという。-----

## **筋力に欠かせない緑の葉物野菜？**

リンク DE ダイエット – 2021/3/29 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.3.29, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=74668&-lay=lay&-Find.html>

葉物野菜を毎日 1 カップ食べると、筋肉機能が向上する可能性がある、という豪州エディンバラ大学からの研究報告。主に野菜から硝酸塩を多く含む食事を摂取した人は、下肢の筋肉機能が大幅に改善されていることがわかったという。-----

## **たんぱく質をたくさん摂っただけ筋力・筋量が増強されるわけではない？**

リンク DE ダイエット – 2021/3/29 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.3.29, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=74667&-lay=lay&-Find.html>

10 週間の筋肉増強および食事療法プログラムで、トレーニング中に高たんぱく質食を食べても、中たんぱく質食よりも筋力および筋量が増加することはなかった、という米国イリノイ大学からの研究報告。-----

## **超加工食品はあなたの心を壊しています？**

リンク DE ダイエット – 2021/3/26 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.3.26, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=74655&-lay=lay&-Find.html>

超加工食品の多い食事の摂り過ぎは、心血管系疾患の発症リスクと死亡リスクの増加に関連しているかもしれない、という米国ニューヨーク大学からの研究報告。-----

## 魚油の効果はあなたの遺伝子型に依存する？

リンク DE ダイエット – 2021/3/31 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.3.31, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=74687&lay=lay&Find.html>

魚油の健康効果は、遺伝子組成によって変わってくるかもしれない、という米国ジョージア大学からの研究報告。-----

## 魚油サプリメントは 4 週間の摂取でも、運動後の筋肉損傷を部分的に緩和する

スポーツ栄養 WEB - 2021/3/25 <https://sndj-web.jp/news/001248.php>

魚油サプリメント摂取により、遠心性収縮後の筋肉の損傷が軽減される可能性を示すデータが報告された。法政大学生命科学部の越智英輔らの研究によるもので、「Journal of the International Society of Sports Nutrition」に論文が掲載された。-----

## タンパク質をいつ摂るかにより心血管代謝因子への影響が異なる 米国国民健康栄養調査の解析

スポーツ栄養 WEB - 2021/3/24 <https://sndj-web.jp/news/001246.php>

米国の国民健康栄養調査のデータを解析した研究から、タンパク質を1日のどのタイミングで摂るかによって、血圧や血清脂質、インスリン抵抗性などへの影響が変化することが明らかになった。-----

## 5 大陸・14 万人・10 年の追跡で、GI 値と心血管イベント・全死亡との有意な関連を確認

スポーツ栄養 WEB - 2021/3/27 <https://sndj-web.jp/news/001249.php>

グリセミックインデックス (GI) と心血管イベント発生率との関連を、5 大陸にわたる約 14 万人を対象に 10 年近く追跡したデータを解析した結果が、「The New England journal of medicine」に掲載された。-----

## タンパク源の選び方が女性の全死亡、心血管死、認知症関連死のリスクに違いにつながる

スポーツ栄養 WEB - 2021/4/2 <https://sndj-web.jp/news/001260.php>

タンパク質を何からとるかによって、全死亡、心血管死、認知症関連死のリスクに有意な差が生じる可能性を示す研究結果が報告された。米国で女性を対象に行われている大規模疫学研究の登録者 10 万人以上のデータを前向きに解析した結果であり、米国心臓協会 (American Heart Association ; AHA) の「J Am Heart Assoc」に報告された。-----

## 持久力を支えるグリコーゲンローディング、それを支えるアラニンとプロリン

スポーツ栄養 WEB - 2021/4/5 <https://sndj-web.jp/news/001264.php>

持久系スポーツのパフォーマンスを高める戦略として、糖質を積極的に摂取するグリコーゲンローディング (カーボローディング) が古くから研究され、実際に広く用いられている。改めて説明するまでもないながら、糖質の摂取はアスリート以外にも有用で、例えば長時間の身体活動を必要とする労働にも役立つ可能性があり、多くの人に知っていただくため、まず簡単に解説する。-----

## キノコ摂取量とがんリスク～メタ解析

CareNet.com - 2021/3/24 <https://www.carenet.com/news/general/carenet/51905>

キノコは生理活性化合物が豊富で、健康上のメリットについての研究が増えている。そこで、米国・ペンシルベニア州立大学医学部の Djibril M. Ba 氏らは、系統的レビューおよびメタ解析により、キノコ摂取量と各種がん発生リスクとの関連を評価した。-----

## 亜鉛とビタミン C は COVID-19 の症状改善に効果なし

CareNet.com - 2021/3/25 <https://www.carenet.com/news/general/hdn/51775>

免疫力を高めるとの定評があるアスコルビン酸 (ビタミン C) と亜鉛だが、これらのサプリメント (サプリ) を摂取しても新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) からの回復には役立たないとする研究結果が報告された。どちらか一方、または両方の組み合わせを患者に投与しても、COVID-19 の症状の持続期間や重症度が大幅に減少することはなかったという。米クリーブランドクリニック Heart, Vascular & Thoracic Institute の Milind Desai 氏らによるこの研究の詳細は、「JAMA Open Network」に 2 月 12 日掲載された。-----

## 柿タンニンの摂取で、潰瘍性大腸炎モデルマウスの病態が改善—奈良医大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2021/4/5

<http://www.qlifepro.com/news/20210405/persimmon-tannin.html>

### 指定難病の中で最多患者数の潰瘍性大腸炎

奈良県立医科大学は4月2日、柿より高純度に抽出した柿タンニン（柿渋）が、潰瘍性大腸炎で増加する腸内の悪玉菌の増殖と炎症反応を抑え、潰瘍性大腸炎の病態を改善できることを動物モデルにて実証したと発表した。この研究は、同大免疫学講座の伊藤利洋教授、畿央大学健康科学部の栢野新市教授、松村羊子教授らの共同研究グループによるもの。研究成果は、「Scientific Reports」にオンライン掲載されている。-----

## オリザ油化、ヒト試験でトマト種子エキスの肌弾力改善作用を確認—抗糖化と肌弾力の機能性表示食品を目指す

健康メディア.com - 2021/3/29 [https://www.kenko-media.com/food\\_devlp/archives/4950](https://www.kenko-media.com/food_devlp/archives/4950)

オリザ油化は2018年に上市した「トマト種子エキス」について、肌への効果に関する機能性研究を重ねており、有効成分がサポニン成分である「リコペロサイドH」であること、コラーゲンやエラスチンのリサイクル促進作用、保湿・バリア機能促進作用、アトピー性皮膚炎モデルマウスの症状改善作用などの機能を解明している。-----

## ■ その他の注目研究・技術情報

## 正常体重の人にみられる代謝異常は、脂肪の“質”が原因の可能性 順天堂大学スポーツロジックセンター

スポーツ栄養 WEB - 2021/4/2 <https://sndj-web.jp/news/001261.php>

肥満に代謝異常を伴いやすいことは周知されており、特定健診（メタボ健診）でも内臓脂肪肥満が種々の代謝異常の上流にあることを前提にスクリーニングが行われている。しかし近年、日本人では非肥満者にも心血管代謝リスク因子が重複している人が少なくないと報告されるようになった。-----

## 運動を行うことで、質の良い睡眠を効率的に獲得できる可能性—筑波大

QLifePro 医療ニュース - 2021/3/25

<http://www.qlifepro.com/news/20210325/exercise-sleep.html>

## **エンベロープ解析による $\delta$ 波の安定性評価を行い、運動が睡眠におよぼす効果を検討**

筑波大学は3月24日、運動を行うことにより、質の良い睡眠がとれ、より短時間で効率よく睡眠要求を満たすことができる可能性が示唆されたと発表した。この研究は、同大国際統合睡眠医科学研究機構（WPI-IHIS）のVOGT Kaspar E.准教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Scientific Reports」に掲載されている。-----

## **褐色脂肪細胞の体内時計障害が肥満を招くメカニズムの一端を解明—金沢大ほか**

QlifePro 医療ニュース - 2021/4/2

[http://www.qlifepro.com/news/20210402/brown-adipocyte-tissue.html](http://www qlifepro.com/news/20210402/brown-adipocyte-tissue.html)

### **体内時計の乱れが生活習慣病をもたらすのはなぜか**

金沢大学は3月31日、褐色脂肪細胞の体内時計が障害されると太りやすくなることを明らかにしたと発表した。この研究は、同大医薬保健研究域医学系の安藤仁教授らの共同研究グループによるもの。研究成果は、「Molecular Metabolism」に Accepted Article として掲載されている。-----

## **間葉系幹細胞から脂肪細胞への分化過程追跡に成功—富山大ほか**

QLifePro 医療ニュース - 2021/3/29

<http://www.qlifepro.com/news/20210329/meflin-lineage-cells.html>

### **Meflin 陽性細胞の脂肪組織での役割は不明だった**

富山大学は3月26日、間葉系幹細胞のマーカー遺伝子を発現する細胞に遺伝子組み換え酵素を発現するマウスを作製し、間葉系幹細胞から脂肪細胞への分化の過程を追跡した結果を発表した。この研究は、同大学術研究部医学系内科学講座1の戸邊一之教授、桑野剛英医師らの研究グループと、同大学術研究部医学系分子神経科学講座、病態・病理学講座および京都大学との共同研究によるもの。研究成果は、「PLOS ONE」にオンライン掲載されている。-----

## **脳活動の多人数同時計測システム(研究用途)の販売開始 ~最大8人の前額部の脳血流量変化を計測し表示~**

@Press - 2021/3/29 <https://www.atpress.ne.jp/news/252871>

国立大学法人東北大学と株式会社日立ハイテクのジョイントベンチャーである株式会社NeU(本社：東京都千代田区、代表取締役：長谷川 清、以下、NeU)は、8人までの前額部での脳活動を同時に計測し表示するシステム「MPMS-HOT-2000-8(4人用はMPS-HOT-2000-4)」を発売いたします。-----

## 健康食品等に関する 日本語記事情報（2021年4月号 No.2）

（4月20日締め）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

*なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。*

英文記事情報については別途お送りいたします。

**記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。**

### ○ 記事一覧

記事の見出しと冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております。

## ■ 安全性関連情報

### 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 被害関連情報および素材情報データベース

2021年4月更新中

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2313>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2310>

素材情報データベース（新規） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2317>

2021年3月分

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2299>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2297>

素材情報データベース（新規） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2298>

## 食品安全情報（化学物質）No.8 / 2021（2021.4.14）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2021/foodinfo202108c.pdf>

**全リスト**

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

## 食品安全情報 blog2（2021-04-12）

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2021/04/12/184316>

[BfR] 食品サプリメントと強化食品のビタミンやミネラルの最大量

**追記：BFR（ドイツ連邦リスク評価研究所）の公開文書の紹介。項目見出し（太字 [---- -]）としては4番目になります。**

## 国際がん研究機関(IARC)、欧州9か国におけるトランス脂肪酸の食事による摂取と乳がんリスクに関する研究について公表

資料種別:食品安全関係情報 資料日付: 2021年3月31日

<https://www.fsc.go.jp/fsciis/foodSafetyMaterial/show/syu05580460298>

国際がん研究機関(IARC)は3月31日、欧州9か国におけるトランス脂肪酸の食事による摂取と乳がんリスクに関する研究について公表した。-----

## ■ 不適切な表示、販売など（行政機関情報、その他）

### 厚生労働省が令和元年度「インターネット販売製品の買上調査」結果を公表（210420）

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 - 2021/4/20

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4601.html>

■注意喚起および勧告内容

2021年4月19日、厚生労働省が令和元年度「インターネット販売製品の買上調査」結果を公表。調査対象となったいわゆる健康食品34製品中4製品（下記の一覧参照：写真は厚生労働省ウェブページより加工転載）から医薬品成分（シルデナフィルなど）が検出された。厚生労働省は当該製品を使用しないように、また、使用して体調に不安を感じている場合は医療機関を受診するように勧告。-----

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

### 製造物責任法の概要及びQAを掲載しました

消費者庁 - 2021/4/14

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer\\_safety/other/index.html#product\\_liability\\_law](https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/other/index.html#product_liability_law)

### 【基礎知識 | 更新】2021年4月掲載情報一覧

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 - 2021/4/15

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2318>

2021年4月更新の基礎知識は下記の通りです。

- 【基礎知識】その情報は「確かな情報」ですか？（Ver.210415）

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail771.html>

*追記：健康食品の効果・効能の科学的根拠の確かさについて説明されています。*

## ■ 海外公的機関情報

*以下、3件は食品安全委員会の食品安全総合情報システムの4月15日検索確認分です。*

### 欧州食品安全機関(EFSA)、健康強調表示の申請書の作成及び提出に関する科学的及び技術的ガイダンスを公表

資料種別:食品安全関係情報 資料日付:2021年3月26日

<https://www.fsc.go.jp/fsciis/foodSafetyMaterial/show/syu05580500149>

欧州食品安全機関(EFSA)は3月26日、健康強調表示の申請書の作成及び提出に関する科学的及び技術的ガイダンス(第3版)(2021年1月21日承認、PDF版35ページ、doi:10.2903/j.efsa.2021.6554)を公表した。----

### 欧州食品安全機関(EFSA)、たん白加水分解物から製造される乳児用調製乳及びフォローオン調製乳の評価のための書類作成及び提出に関する科学的及び技術的ガイダンスに関する科学的意見書を公表

資料種別:食品安全関係情報 資料日付:2021年3月26日

<https://www.fsc.go.jp/fsciis/foodSafetyMaterial/show/syu05580490149>

欧州食品安全機関(EFSA)は3月26日、たん白加水分解物(protein hydrolysates)から製造される乳児用調製乳及びフォローオン調製乳の評価のための書類作成及び提出に関する科学的及び技術的ガイダンスに関する科学的意見書(2021年1月21日承認、PDF版26ページ、doi:10.2903/j.efsa.2021.6556)を公表した。-----

## 欧州食品安全機関(EFSA)、健康強調表示の申請に関する利害関係者のための一般的な科学的ガイダンスを公表

資料種別:食品安全関係情報 資料日付:2021年3月26日

<https://www.fsc.go.jp/fsciis/foodSafetyMaterial/show/syu05580480149>

欧州食品安全機関(EFSA)は3月26日、健康強調表示の申請に関する利害関係者のための一般的な科学的ガイダンス(2021年1月21日承認、PDF版44ページ、doi:10.2903/j.efsa.2021.6553)を公表した。-----

## ■ 市場予測、動向 (食品・健康食品全般)

### 富士経済、H・Bフーズの国内市場の調査、体調管理需要増で2020年市場は前年比0.8%増の2兆4482億円を見込む

マイライフニュース - 2021/4/13

<https://www.mylifenews.net/data/2021/04/hb20200824482.html>

総合マーケティングビジネスの富士経済は、新型コロナウイルス感染症流行の影響で需要が変化する健康志向食品(明らか食品・ドリンク類)と機能志向食品(サプリメント)を対象としたH・Bフーズ全体の国内市場を訴求効能別に21カテゴリーに分類し分析した。----

### 「菓子」「パン」「和食」など、サステナブルに照準(特集/昆虫食)

健康メディア.com - 2021/4/20

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15259](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15259)

食用昆虫が世界的に注目を集めている。その背景として挙げられるのが人口増や新興国の経済発展に伴う将来的な食糧不足問題だ。国連の分析では2050年の世界人口は100億人に迫る見通しで、肉の代替となるタンパク源確保に向けた取り組みが世界的規模で進んでいる。近年注目を集める昆虫食の代表格は食用コオロギ。国内では良品計画や敷島製パンがコオロギ粉末を使用した昆虫食で市場に参入した。行政サイドでは、農水省によるフードテッ

ク官民協議会が昨年発足し、品質の担保に向けた法整備などの議論が進む。機能性については血糖値上昇抑制作用などの研究が行われている。-----

## ■ 具体的素材・成分、製品情報（市場予測・動向等）

今回は特に見当たりませんでした。

## ■ 企業動向、注目ビジネス情報

今回は特に見当たりませんでした。

## ■ 消費者意識等の調査・分析

### ウーマンウェルネス研究会、春の不調に関する意識調査、気分が落ち込む・だるさなど「春バテ」経験者は6割以上に

マイライフニュース - 2021/4/6 <https://www.mylifenews.net/data/2021/04/6-4.html>

女性の健康力向上を通じた社会の活性化への貢献を目指す「ウーマンウェルネス研究会 supported by Kao」では、春の不調に関する意識調査を、首都圏在住の835人（20代～50代男女）を対象に実施した。-----

### TPC マーケティングリサーチ、糖質に関する意識・実態調査、糖質が気になる人は2017年から10ポイント近く増加

マイライフニュース - 2021/4/9

<https://www.mylifenews.net/data/2021/04/tpc201710.html>

TPC マーケティングリサーチは、食事（ごはんやおかず）の糖質が気になり、糖質の多い食品の摂取を意識的に週の半分以上控えている20～60代の男女619名を対象に糖質に関する意識と糖質制限の実態について調査を実施、その結果を発表した。-----

## ■ 食品、食品素材・成分関連情報（科学的知見中心）

## 血糖値を安定化する生理活性ペプチドを発見 インスリンと GLP-1 の分泌促進を確認 新しい糖尿病治療法の可能性

糖尿病ネットワーク - 2021/4/14 <https://dm-net.co.jp/calendar/2021/035761.php>

名古屋大学は、血糖値の安定化に寄与する、天然アミノ酸からなる生理活性ペプチドを発見したと発表した。

発見したペプチドは、膵臓のβ細胞でグルコース濃度依存的にインスリン分泌を、さらに腸内分泌細胞ではインクレチン(GLP-1)の分泌を促進した。

まったく新しい血糖値を安定化する物質になる可能性があるとしている。-----

## 加工肉が死亡と心血管系疾患のリスクが高いことに関連

リンク DE ダイエット - 2021/4/12 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.4.12, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=74772&lay=lay&Find.html>

未加工の赤肉や鶏肉の摂取は、死亡率や主要な心血管系疾患事象のリスクと関係ないが、加工肉摂取は多いほど総死亡率と主要な心血管系疾患のリスクの上昇と関係するようだ。カナダ・マクマスター大学などからの研究報告。-----

## 思春期の甘味飲料過剰摂取が成長後の記憶障害の原因に？

リンク DE ダイエット - 2021/4/13 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.4.13, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=74783&lay=lay&Find.html>

思春期に甘い飲み物を飲み過ぎると、成長後の記憶障害につながるかもしれない、という米国南カリフォルニア大学などからのラットを用いた動物実験の報告。腸内細菌が関係しているという。-----

**追記：英文記事情報の前号 (2021年4月号 No.1) で以下の記事情報として紹介済みです。**

「Translational Psychiatry」掲載論文 (オープンアクセス) : 「Gut microbial taxa elevated by dietary sugar disrupt memory function」

<http://dx.doi.org/10.1038/s41398-021-01309-7>

## 深夜のおやつが職場のパフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性

リンク DE ダイエット - 2021/4/14 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.4.14, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=74831&lay=lay&Find.html>

夜間の不健康な食行動は、翌日の仕事での人々のパフォーマンスを落とし、離脱行動を助長する可能性がある、という米国ノースカロライナ州立大学からの研究報告。-----

## 緑茶を飲むと、不健康な生活習慣による心血管代謝への悪影響が緩和される

スポーツ栄養 Web - 2021/4/15 <https://sndj-web.jp/news/001273.php>

健康的な生活習慣による高血糖や高インスリン血症、血管機能の低下を、緑茶が緩和する可能性を示唆するデータが報告された。健康な男性に7日間、過剰摂取と不活発な状態で過ごしてもらうという条件下での、二重盲検プラセボ対照クロスオーバー試験で検討した結果だ。-----

## 腸内細菌由来のポリアミンが大腸粘膜の健全性の維持に重要と判明―慶大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2021/4/15

<http://www.qlifepro.com/news/20210415/polyamine.html>

### 腸内細菌由来ポリアミンの大腸組織への影響を、細胞・分子レベルで解明

慶應義塾大学は4月9日、腸内細菌由来のポリアミンが腸上皮細胞やマクロファージに作用して、大腸粘膜の健全性の維持に重要な役割を担うことを明らかにしたと発表した。この研究は、同大薬学部の長谷耕二教授、協同乳業株式会社の中村篤央研究員（慶應義塾大学薬学部 共同研究員）、松本光晴主幹研究員を中心とする研究グループによるもの。研究成果は、「Nature Communications」電子版に掲載されている。-----

## 味覚センサを用いて新たに特定したコーヒーの苦味物質について報告

UCC 上島珈琲株式会社 - 2021/4/16

<https://www.ucc.co.jp/company/research/taste/bittertaste.html>

### 第27回国際コーヒー科学会議（ASIC）にて発表、Food Chemistry に掲載

UCC 上島珈琲株式会社は、九州大学、株式会社インテリジェントセンサーテクノロジーと共同で、味覚センサに反応するコーヒー中の苦味物質について研究を行いました。この研究成果は、第27回国際コーヒー科学会議（ASIC）（2018年9月17日～9月20日 オレゴンコンベンションセンター／アメリカ オレゴン州）にて口頭発表しています。また、Food Chemistry（2021年4月16日）に掲載されました。-----

## ■ その他の注目研究・技術情報

### やせている若い女性は太っているのと同じ!? やせに伴う食後高血糖の実態が明らかに

スポーツ栄養 WEB - 2021/4/8 <https://sndj-web.jp/news/001266.php>

若年日本人女性が年々やせていく傾向にあることが「国民健康・栄養調査」から示されている。若年期の低体重は、高齢になってからの骨粗鬆症のリスク増大、子どもの生活習慣病リスクの増大などとの関連が報告されているが、新たに日本人のやせた若年女性(BMI 18.5未満)には、食後高血糖を特徴とする耐糖能異常が多いことが報告された。----

### 私たちの何人かがいつも空腹である理由

リンク DE ダイエット – 2021/4/19 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.4.19, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=74853&-lay=lay&-Find.html>

食事の数時間後に血糖値が大幅に低下した人は、低下しなかった人に比べて、より空腹感を感じ、1日数百 kcal 多く摂取するかもしれない、という英国キングスカレッジロンドンなどからの研究報告。-----

## ■ その他

*次の記事は見出し、出典・日付、URL のみのご紹介となります。*

### 【第 65 回】徹底解説：ベトナム市場に健康食品を輸出・販売するための手続き【未来を創るベトナムビジネス】

VIETJO ベトナムニュース - 2021/4/10

<https://www.viet-jo.com/news/column/210408114756.html>

以上

**健康食品等に関する  
日本語記事情報 (2021 年 5 月号 No.1)**

(5月6日正午締め)

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、(公財)日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

(例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等)

*なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。*

英文記事情報については別途お送りいたします。

**記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。**

## ○ 記事一覧

記事の見出しと冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております。

## ■ 安全性関連情報

### 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 被害関連情報および素材情報データベース

2021年5月更新中

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2329>

素材情報データベース (更新) <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2326>

素材情報データベース (新規) <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2328>

2021年4月分

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2313>

素材情報データベース (更新) <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2310>

素材情報データベース (新規) <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2317>

## ● 専門家に聞きました【第1回】

健康食品の利用に必要な情報とその解釈 梅垣敬三 (昭和女子大学教授)

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 健康食品の安全性・有効性情報 (最新情報) - 2021/5/6

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4606.html>

## 食品安全情報（化学物質） No. 9/ 2021（2021. 04. 28）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2021/foodinfo202109c.pdf>

### **全リスト**

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

以下、7件は食品安全委員会の食品安全総合情報システム (<https://www.fsc.go.jp/fscis/>) の検索結果 (5月6日朝) の中で目に付いたものです。

[見出しのクリックで内容をご覧ください。](#)

1. [フランス食品環境労働衛生安全庁\(ANSES\)、内分泌かく乱物質の評価を加速させていることを公表](#)
  
10. [カナダ保健省\(Health Canada\)、フルーツジュース及びフルーツネクター中の総ヒ素に関する基準値\(ML\)の更新を提案](#)
  
11. [カナダ保健省\(Health Canada\)、乳幼児用コメ加工食品中の無機ヒ素に関する基準値を設定することを提案](#)
  
15. [国際連合食糧農業機関\(FAO\)、「食品安全の観点から見る食用昆虫」の刊行を公表](#)
  
16. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、乳児用食品のための行動計画「ゼロにより近づける\(Closer to Zero\)」を公表](#)
  
17. [欧州連合\(EU\)、乳児用及びフォローオン調製乳、ベビーフード及び加工済みシリアルベースの食品に添加することが許容される物質のリストの改正を官報で公表](#)
  
20. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としてのビタミン D2 マッシュルーム粉末\(Agaricus bisporus\)の安全性に関する科学的意見書を公表](#)

## ■ 不適切な表示、販売など（行政機関情報、その他）

### インターネットにおける健康食品等の虚偽・誇大表示に対する要請について（令和3年1月～3月）

消費者庁 - 2021/4/27

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/extravagant\\_advertisement/assets/representation\\_cms214\\_210427\\_01.pdf](https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/extravagant_advertisement/assets/representation_cms214_210427_01.pdf)

消費者庁では、令和3年1月から3月までの期間、インターネットにおける健康食品等の虚偽・誇大表示の監視を実施しました。

この結果、インターネットにおいて健康食品等を販売している99事業者による101商品の表示について、健康増進法第65条第1項の規定に違反するおそれのある文言等があったことから、これらの事業者に対し、表示の改善を要請するとともに、当該事業者がショッピングモールに出店している場合には、出店するショッピングモール運営事業者に対しても、表示の適正化について協力を要請しました。-----

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

今回は、特に見当たりませんでした。

## ■ 海外公的機関情報

次の1件は食品安全委員会の食品安全総合情報システム (<https://www.fsc.go.jp/fscis/>) の検索確認 (5月6日朝) の中で目に付いたものです。

[見出しのクリックで内容をご覧ください。](#)

21. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、圧力加熱により製造された非加熱喫食用加熱調理済みシリアル中のえん麦及び大麦由来のβ-グルカンと摂取後の血糖値上昇の低減に関する健康強調表示の評価に関する科学的意見書を公表](#)

### 米国がゴマを9つ目の食品アレルギー原因物質に追加（米国）

日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2021/4/28

## ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

### 肌3分野（スキンケア、ベースメイク、サンケア）製品開発活発（特集／化粧品開発最前線）

健康産業新聞 - 2021/4/27 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15272](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15272)

2019年に国内販売額が1兆7,000億円台と過去最高を記録した化粧品市場だが、昨年はコロナ禍でインバウンド需要が激減し、前年同期比84%の1兆2,213億円に。店販や美容サロンなど打撃を受けた販社の中には、通販に切り替えるケースも。越境ECなど中国を筆頭にアジア諸国での“Made in Japan”化粧品ニーズは旺盛で、日本製の優れた品質が、海外市場で高い評価を獲得している。5月には、-----

### 健康や環境への意識変化で売場での存在感を急速に高める「プラントベースフード」

ダイヤモンド・チェーンストア - 2021/4/26

<https://diamond-rm.net/sales-promotion/81880/>

健康や動物愛護などを理由とする菜食主義は早くから世界の一部で定着してきたが、エコや、サステナビリティの観点からも動物性タンパク質に頼らない植物由来の食品が注目されている。日本国内でも、2020年に代替肉市場が一気に活性化するなど、新たなトレンドが進行中だ。20年～21年の新店の売場から、プラントベースフードの扱い状況を紹介する。-----

## ■ 具体的素材・成分、製品情報（市場予測・動向等）

### 機能性表示食品100品超へ、ニューノーマル時代の肌ケアで脚光（特集／セラミド）

健康産業新聞 - 2021/4/27 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15268](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15268)

グルコシルセラミドを関与成分とした機能性表示食品が100品を超え、「肌の保湿、肌バリア機能の維持」をテーマに順調に受理数を伸ばしている（3月31日時点）。同テーマ2位のヒアルロン酸（80品）を大きく引き離し、存在感を示しつつある。昨年上半期は新型コロナウイルスの影響もあり、美容商品の動きが鈍化したものの、マスク着用やアルコール

ル多用など、コロナ禍特有の肌トラブルも顕在化。肌への作用が期待できる有力素材としてセラミドへの関心が高まりそうだ。-----

## ■ 企業動向、注目ビジネス情報

レポート◎国立国際医療研究センターとアクセンチュアが共同研究を開始

### 「ブラックボックス」化しない生活習慣病リスク予測 AI を目指す

日経メディカル - 2021/5/10

<https://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/mem/pub/report/t285/202105/570037.html>

### 【連載】ベンチャー巡訪記【全記事まとめ】

AnswersNews - 2021/4/22

<https://answers.ten-navi.com/pharmanews/19621/>

製薬業界のプレイヤーとして存在感を高めるベンチャー。注目ベンチャーの経営者を訪ね、創業のきっかけや事業にかける想い、今後の展望などを語ってまいります。

### 古今のハーブをブレンド、新世代ウェルネス・ドリンクに注目

Beyond Health（日経 BP 総合研究所） - 2021/4/28

第 15 回 Lify Wellness の挑戦 甲斐 美也子＝香港在住ジャーナリスト 2021.4.28

<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/column/00011/042100016/>

### 食品企業 4 社が千葉市と減塩普及啓発で連携 イオン・マリンピア店に減塩コーナー

食品新聞 - 2021/4/28

<https://shokuhin.net/42848/2021/04/28/sonota/%E4%BC%81%E6%A5%AD%E6%B4%BB%E5%8B%95/>

## ■ 消費者意識等の調査・分析

今回は特に見当たりませんでした。

## ■ 食品、食品素材・成分関連情報（科学的知見中心）

### 脂質からのエネルギー利用を高める「シスチン」とは？ 疲れを軽減するエビデンスも

スポーツ栄養 WEB - 2021/4/22 <https://sndj-web.jp/news/001285.php>

身体を動かすにはエネルギーが必要だ。そのエネルギー源は言うまでもなく、摂取した食品に含まれている栄養素。しかしこれらの栄養素は、そのままのかたちでエネルギーになるのではなく、いったん“エネルギーの通貨”とも呼ばれる「アデノシン三リン酸（Adenosine tri-phosphate ; ATP）」に変換されて、エネルギーになる。-----

### 15km ロードレース後、タンパク質・炭水化物摂取の効果は？ 筋肉痛と筋損傷の比較

スポーツ栄養 WEB - 2021/4/27 <https://sndj-web.jp/news/001288.php>

15km のロードレース参加後の3日間にわたるタンパク質補給が筋肉痛を抑制するか、という研究の結果が報告された。結論は、この研究で採用されたプロトコルでは、炭水化物の補給と有意差がなく、疼痛閾値に関してはむしろ炭水化物補給の方が高いというものだ。-----

### オメガ3 サプリでストレスから二重に保護：臨床試験

リンク DE ダイエット - 2021/4/23（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.4.23, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=74889&lay=lay&Find.html>

毎日 2.5g のオメガ-3 系多価不飽和脂肪酸を含むサプリメントは、ストレス負荷後の細胞レベルでの損傷を抑制し加齢を遅らせるのに役立つ可能性がある、という米国オハイオ州立大学からのランダム化プラセボ（偽薬）対照臨床試験。-----

### ビタミンD 欠乏症は筋肉機能を損なう可能性があります

リンク DE ダイエット - 2021/4/23（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.4.23, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=74888&-lay=lay&-Find.html>

ビタミンD 欠乏は、筋肉のエネルギー産生を低下させることによって筋肉機能を損なうかもしれない、という豪州ガーヴァン医学研究所からのマウスを用いた研究報告。-----

## **NMN がヒトの筋肉の糖代謝を改善**

リンク DE ダイエット - 2021/4/26 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.4.26, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=74919&-lay=lay&-Find.html>

先行研究で、マウスの加齢を打ち消し代謝的健康を改善することが示唆されているニコチンアミドモノヌクレオチド (NMN) が、ヒトの臨床的関連効果を有するかもしれない、という米国ワシントン大学セントルイスからの研究報告。

## **■ その他の注目研究・技術情報**

### **健康的な食事の設計にコンピュータ分析を用いる**

リンク DE ダイエット - 2021/4/22 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.4.22, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=74887&-lay=lay&-Find.html>

腸内の細菌の相互作用に関する新しい数学的モデルは、病気を予防するための新しいプロバイオティクスと特別に調整された食事の設計に役立つ可能性がある、というスウェーデン・チャルマース工科大学からの研究報告。-----

### **食欲を制御する受容体が拒食症に関連？**

リンク DE ダイエット - 2021/4/22 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.4.27, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=74933&-lay=lay&-Find.html>

マウスの脳にある受容体を標的とすることで、拒食症に関連した摂食行動および不安症様行動を変化させることに成功した、という研究報告。-----

*追記：同時発信の英文記事情報でも以下の論文情報としてご紹介しております。*

「Science Translational Medicine」掲載論文：「The melanocortin-3 receptor is a pharmacological target for the regulation of anorexia」

<https://stm.sciencemag.org/content/13/590/eabd6434>

## 病気の発症を予測する

リンク DE ダイエット – 2021/4/22 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.4.22, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=74886&lay=lay&Find.html>

無数の遺伝的要因が、高血圧、心臓病、2型糖尿病などの病気の発症に影響を与える可能性がある。豪州科学技術研究所の研究者らは、患者のゲノムデータの大規模なセットから得られる予測品質を向上させる新しい数学モデルを開発したと報告した。-----

## 肥満や糖尿病の人は食べ物をうまく噛めていない、オーラルフレイルの高リスク状態

スポーツ栄養 WEB - 2021/4/22 <https://sndj-web.jp/news/001282.php>

肥満や糖尿病患者は、口腔機能が低下する「オーラルフレイル」のリスクが高いことが明らかになった。大阪大学の研究グループの研究によるもので、「Obesity research & clinical practice」に論文掲載されるとともに、同大学のサイトにニュースリリースが掲載された。-----

## 80歳以上の高齢者の半数以上がタンパク質不足、その有病率と修正可能な因子は？

スポーツ栄養 WEB - 2021/4/27 <https://sndj-web.jp/news/001286.php>

80歳以上の高齢者の半数以上は推奨されるタンパク質摂取量を満たしていないことが報告された。また、口渇や疼痛に介入することが、その是正につながる可能性も明らかになった。デンマークの都市部住民を対象とする横断研究の結果だ。-----

## 胃腸は味がわかる!? 消化管での主要栄養素の感知に関するナラティブレビュー

スポーツ栄養 WEB - 2021/4/24 <https://sndj-web.jp/news/001280.php>

味覚は舌で感じている。その味覚は生存にとって重要であり、食物が摂取に適しているかどうかの判断に欠かせない。一般には、酸っぱい物や苦い物は危険と判断される。一方、食物を摂取する最大の目的は、栄養素を身体にとり入れることだ。では、その栄養素の違いは、身体のどこで感知しているのだろうか？ -----

## 腸内細菌叢が作り出す複雑な脂質多様性を解明する手法を開発—理研ほか

QlifePro 医療ニュース - 2021/4/30

<http://www.qlifepro.com/news/20210430/lipid-diversity.html>

腸内細菌叢が産生する未知の分子を捉えるのに適したノンターゲットリポミクスを実施  
理化学研究所（理研）は4月28日、未知代謝物を含めた網羅的な解析が可能なノンターゲット質量分析法と、未知分子の構造推定を支援する Molecular spectrum networking 技術を組み合わせることで、腸内細菌叢が作り出す複雑な脂質多様性を解明する新しいリポミクス解析手法を開発したと発表した。-----

## 学習時の刺激により、脳内のタンパク質が集合体を形成することを発見—京大ほか

QlifePro 医療ニュース - 2021/5/6

<http://www.qlifepro.com/news/20210506/brain-protein.html>

### 細胞内タンパク質の振る舞い「液—液相分離」による集合体形成に注目

京都大学は4月30日、学習時の刺激により脳内のタンパク質が集合体を形成することを明らかにしたと発表した。この研究は、同大学院医学研究科の林康紀教授、細川智永特定研究員（研究当時、現：名古屋大学講師）、劉品吾博士課程学生らの研究グループによるもの。研究成果は、「Nature Neuroscience」にオンライン掲載されている。-----

## 唾液と糞便から疾病発症リスクを分析 英国企業が日本の健康レベルをさらに向上へ

Ledgi.ai - 2021/4/24 <https://ledge.ai/atlasbiomed-interview/>

イギリス・ロンドンに本社を構えるスタートアップ企業 アトラスバイオメッドが日本に進出した。アトラスでは、利用者から提出される唾液と糞便を検査・分析し、健康状態を可視化するサービスを展開している。本サービスを提供している国は、イギリス、アイルランド、ドイツ、スウェーデン、オランダ、ベルギー、ルクセンブルク、イタリア、ハンガリ

一、デンマーク、ノルウェー、オーストリア、フィンランド、ポーランド、トルコ、ロシアと非常に多い。-----

## 大日本印刷と AI inside、ノーコードで簡単に AI モデルを開発できる支援サービス 数ヵ月かかる開発が 30 日に

Ledgi.ai - 2021/4/25 <https://ledge.ai/dnp-ai-inside-learning-center/>

-----

本サービスは直感的な操作で使いやすい日本語の UI を備え、ノーコードで誰でも簡単に高精度な AI モデル開発ができるとうたう AI inside による「Learning Center」を活用している。DNP は AI の導入を希望する企業や自治体に対し、「Learning Center」の販売および活用に関するプランニングを手がける。-----

## 匂いをデジタル化すると何ができる？嗅覚センサーと AI 解析サービスで I-PEX とヘッドウォータースが協業

ロボスタ - 2021/4/24 <https://robotstart.info/2021/04/24/ipex-hwaters-e-nose.html>

デジタル嗅覚(e-nose)市場は、スマートセンサーの次世代トレンドとして自動車、食品、飲料から家電製品、パーソナルケア、化粧品に至るまで 2020 年に 1790 万ドルと評価され、2021 年から 2026 年の間に 11.8%の CAGR を記録、2026 年までに 3420 万ドルに達すると予想されている。また、匂いシンセサイザー市場も、2021 年から 2026 年の予測期間にわたって 44.4%の CAGR で同様に成長が予想されており、これらのデジタル香りテクノロジーは、オンラインで購入する前に製品の匂いを嗅ぐという利点をユーザーに提供する。-----

## ■ その他

### 「上からの指示は絶対」「黙って従うしかなかった」小林化工、違法製造を生んだ企業風土

AnswersNews - 2021/4/26 <https://answers.ten-navi.com/pharmanews/20966/>

抗真菌薬に睡眠薬が混入し、多くの健康被害を出したとして、過去最長となる 116 日間の業務停止命令を受けた小林化工。4 月 16 日、社外の有識者で構成する特別調査委員会の報告書が公表されました。「上位者の指示は絶対で、下からの問題提起は許されない」「考えることをやめ、黙って従うしかなかった」。報告書には、違法製造を生んだ異常な企業風土を訴える従業員の声記録されています。

以上

## 健康食品等に関する 日本語記事情報（2021年5月号 No.2）

（5月20日正午締め）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

*なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。*

英文記事情報については別途お送りいたします。

**記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。**

### ○ 記事一覧

記事の見出しと冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております。

## ■ 安全性関連情報

### 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 被害関連情報および素材情報データベース

2021年5月更新中

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2329>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2326>

素材情報データベース（新規） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2328>

- 「没食子酸、トリヒドロキシ安息香酸」（210520）

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4643.html>

- 「重合カテキン」（2105020） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4642.html>

- 「ハクトウスギ」（210506） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4609.html>

- 「プレバイオティクス」（210506）

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4610.html>

2021年4月分

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2313>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2310>

素材情報データベース（新規） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2317>

## 食品安全情報（化学物質） No. 10/ 2021（2021. 05. 12）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2021/foodinfo202110c.pdf>

**全リスト**

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

## 免疫系の調節不全で、食用色素が病気を起こす？

リンク DE ダイエット - 2021/5/18（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.5.18, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=75062&-lay=lay&-Find.html>

免疫系が調節不全になると、人工食品着色剤が病気を引き起こす可能性がある、という米国マウントサイナイ医科大学からの研究報告。-----

## ■ 不適切な表示、販売など（行政機関情報、その他）

### 株式会社シーズコーポレーションに対する景品表示法に基づく措置命令について

消費者庁 - 2021/5/14 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/024139/>

消費者庁は、令和3年5月13日、株式会社シーズコーポレーションに対し、同社が供給する「seeds 糖鎖」と称する食品に係る表示について、景品表示法に違反する行為(同法第5条第1号(優良誤認)に該当)が認められたことから、同法第7条第1項の規定に基づき、措置命令を行いました。-----

### 株式会社シーズコーポレーションに対する食品表示法に基づく指示について

消費者庁 - 2021/5/14 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/024140/>

消費者庁は、令和3年5月13日、株式会社シーズコーポレーションに対し、同社を表示責任者として販売する食品(商品名「seeds 糖鎖」)について、食品表示法第4条第1項に規定する食品表示基準に違反する表示を行っていたことから、同法第6条第1項の規定に基づく指示を行いました。

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

### 第3回特定保健用食品制度(疾病リスク低減表示)に関する検討会の議事録を掲載しました。

消費者庁 - 2021/5/10

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/food\\_labeling/meeting\\_materials/review\\_meeting\\_004/023343.html](https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/meeting_materials/review_meeting_004/023343.html)

### 「食薬区分における成分本質（原材料）の取扱いの例示リスト」の一部改正に関する意見募集の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2021/5/12

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=495200477&Mode=1>

## ■ 海外公的機関情報

今回は特に見当たりませんでした。

## ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

### 免疫分野で初の機能性表示が実現（特集／免疫）

健康メディア.com - 2021/5/13

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15284](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15284)

新型コロナの重症化リスクが高い高齢者世代を中心に、免疫ニーズが沸騰している。健康食品の受託メーカーには、乳酸菌やビタミン、プロポリスなどを配合した免疫サポート系サプリの受注が急増。素材メーカーでは、免疫関連のエビデンスの拡充が続けられている。昨

年 9 月には、機能性表示食品制度において初の免疫表示が実現。すでに 14 品が届出受理されており、-----

## ■ 具体的素材・成分、製品情報（市場予測・動向等）

### サルコペニア対策で、クレアチンの存在感高まる（連載／話題追跡）

健康メディア.com - 2021/5/17 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15322](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15322)

瞬発力・スピード・パワーが重視されるアスリートの間で抜群の知名度と優れた体感、万全の安全性データを持つクレアチン。2019 年 8 月にクレアチンモノハイドレートを関与成分とした製品が、初の機能性表示食品として届出受理されて以降、昨年 10 月には日本予防医薬、今年 2 月にはダイドードリンコ、3 月にはアサヒグループ食品から相次いで機能性表示食品が上市され、サルコペニア対策素材としてのクレアチンの存在感が一気に高まっている。-----

## ■ 企業動向、注目ビジネス情報

リポート◎国立国際医療研究センターとアクセンチュアが共同研究を開始

### 「ブラックボックス」化しない生活習慣病リスク予測 AI を目指す

日経メディカル - 2021/5/10

<https://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/mem/pub/report/t285/202105/570037.html>

### 日清食品の「完全栄養食」が最新データ解析と AI 技術でさらに進化 Preferred Networks と「食と健康状態の解析モデル」の確立に向けた 共同研究を本格始動

日清食品株式会社 - 2021/5/6 <https://www.nissin.com/jp/news/9560>

日清食品株式会社（社長:安藤 徳隆）と株式会社 Preferred Networks（代表取締役 最高経営責任者:西川 徹、<https://www.preferred.jp/>、以下 PFN）は、弊社が研究を進めている最新の分子栄養学に基づいた「完全栄養食」の進化に向け、「栄養素」と「健康状態」の関係を解析する技術の PoC（実証実験）に取り組んできましたが、今回、「食と健康状態の解析モデル」の確立を目指し、本格的な共同研究を開始することで合意しました。-----

## ■ 消費者意識等の調査・分析

### 健康に良い食べもの 2

日本リサーチセンター - 2021/5/7 <https://www.nrc.co.jp/report/210507.html>

2021年3月29日～4月5日に『健康に良い食べもの』について、NRC 自主調査を実施しました。

本調査は、前回に続く2回目の調査です。2020年3月に実施した項目と同じ質問で回答してもらいました。

(インターネット調査で、全国のNRC サイバーパネル会員 14,025 名に、15 の選択肢の中で「普段健康に良いと考え、意識的に食べているもの」を複数回答で聴取)

-----

## ■ 食品、食品素材・成分関連情報（科学的知見中心）

### 葉物野菜を1日1カップ食べると心臓病のリスクが低下？

リンク DE ダイエット - 2021/5/7 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.5.7, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=74989&-lay=lay&-Find.html>

硝酸塩が豊富な野菜を1日1カップ食べるだけで、心臓病のリスクを大幅に減らすことができるようだ、という豪州エディスコーワン大学からの研究報告。-----

### 血中 EPA+DHA が高い人は早期死亡リスクが低い？

リンク DE ダイエット - 2021/5/7 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.5.7, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=74988&-lay=lay&-Find.html>

血中 EPA+DHA レベルが高い人は、低い人と比較して、早期に死亡する可能性が13%低いようだ、という FORCE (脂肪酸とアウトカム研究コンソーシアム) による研究報告。----

### 加糖飲料、毎日2杯で早期大腸がんリスク2倍以上に

リンク DE ダイエット - 2021/5/10 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.5.10, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=75005&-lay=lay&-Find.html>

成人期に加糖飲料を毎日2杯以上飲む習慣のある人は、50歳未満で大腸がんを発症するリスクが2倍以上高まることが明らかになった。一方で、加糖飲料の代わりにコーヒーや牛乳などを飲む場合にはリスクは低減するという。米ハーバード大学による女性を対象とした研究。

**追記：5月7日付けの食品安全情報 blog2 の最後の見出し「砂糖入り飲料摂取と女性の早期発症大腸がんの発生を調べた研究への専門家の反応」で、この研究に関する複数の専門家の見解が紹介されています**

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2021/05/07/182141>

## **超加工食品と子どもの発達**

リンク DE ダイエット - 2021/5/11 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.5.11, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=75007&-lay=lay&-Find.html>

ジャンクフードとも呼ばれる超加工食品と骨質の低下との関連性が明らかに。特に発達期の幼児への影響が懸念されるという。超加工食品と骨格の発達との関係について初の包括的な分析。イスラエル・ヘブライ大学の動物実験より。-----

## **加工食がマウスの慢性感染症を促進する可能性**

リンク DE ダイエット - 2021/5/19 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.5.19, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=75074&-lay=lay&-Find.html>

食物繊維が少ない加工食は、低悪性度の慢性感染症や糖尿病などの炎症性疾患の発生率を増加させる可能性があるようだ、という米国ジョージア州立大学の報告。-----

## **プレバイオティクスで不安レベルが改善されるかも**

リンク DE ダイエット - 2021/5/17 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.5.17, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=75056&-lay=lay&-Find.html>

プレバイオティクスの毎日の摂取は、対照群に比べて、不安レベルの下げることによって精神的ウェルビーキングを改善し、腸の健康を良好にするようだ、という英国サリー大学からの研究報告。-----

**追記：「英文記事情報」の前号（2021年5月号 No.1）で次の論文情報としてご紹介しました。**

「Scientific Reports」掲載論文（オープンアクセス）：「Anxiolytic effects of a galacto-oligosaccharides prebiotic in healthy females (18–25 years) with corresponding changes in gut bacterial composition」

<https://www.nature.com/articles/s41598-021-87865-w>

## ピンク色は運動パフォーマンスを高める?!

リンク DE ダイエット – 2021/5/18（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.5.18, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=75063&-lay=lay&-Find.html>

ピンク色のドリンクによって気分が高まり、より速く、より遠くまで走ることができるという。運動能力に対する色彩の影響について調べた、英・ウェストミンスター大学のユニークな研究。-----

## 新型コロナウイルス感染症に対する栄養とサプリメントの役割を文献レビューから考える

スポーツ栄養 WEB - 2021/5/7 <https://sndj-web.jp/news/001321.php>

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対する栄養とサプリメントの役割に関するレビュー論文が報告された。イタリアの研究者らが発表したもの。-----

## 運動中に筋肉が減ってしまう!? その理由を知ればアミノ酸の必要性が理解できる

スポーツ栄養 WEB - 2021/5/13 <https://sndj-web.jp/news/001332.php>

競技種目によって差はあるが、大半のスポーツは筋肉量や筋力はないよりあったほうが有利だ。筋肉量・筋力をつけるため、多くのアスリートが競技に必要な技術・テクニック向上の練習とは別に、レジスタンストレーニングを行っている。しかし、驚かれるかもしれないが、運動をしているまさにその最中に、筋肉の量が減ってしまう可能性が考えられることを

ご存知だろうか。今回は、日本体育大学体育学部・杉田正明教授に監修いただき、その理由と対策を解説する。-----

## アスリートに対するケトン食の活用 体脂肪率は下がるがコレステロール上昇に要注意

スポーツ栄養 WEB - 2021/5/13 <https://sndj-web.jp/news/001324.php>

ケトン産生食に関しては、体重や血糖管理上の有効性を示唆する報告が増えているが、アスリートを対象とした研究はまだ多くない。こうした中、アスリート対象の研究のみを抽出したシステマティックレビューとメタ解析の結果が報告された。-----

## アルツハイマー病の脳内炎症抑制につながる共役リノール酸を発見—北大ほか

QlifePro 医療ニュース - 2021/5/14

<http://www qlifepro.com/news/20210514/alzheimers-disease-2.html>

### 中枢の脳神経系で機能する異性体を含む共役リノール酸混合物を探索

北海道大学は5月13日、共役リノール酸（CLA）の一種 cis-9、trans-11CLA（以下 c9、t11CLA）を摂取したアルツハイマー病マウスモデルで脳内炎症を抑制するサイトカインが誘導されることを見出したと発表した。-----

## 妊娠中の大豆・イソフラボン摂取、子の多動問題に予防的である可能性—愛媛大ほか

QlifePro 医療ニュース - 2021/5/17

<http://www qlifepro.com/news/20210517/isoflavones-soy.html>

### 議論が分かれる、胎児期イソフラボン曝露による子の発達への影響

愛媛大学は5月14日、妊娠中の大豆摂取が生まれた子の多動問題と仲間関係問題に予防的であり、妊娠中の納豆およびイソフラボン摂取が子の多動問題に予防的であることを示す研究成果を、世界で初めて発表した。この研究は、同大大学院医学系研究科疫学・予防医学講座の三宅吉博教授、東京大学、琉球大学の研究グループによるもの。研究成果は、「International Journal of Food Sciences and Nutrition」電子版に掲載されている。-----

## 見えてきた、NMNのヒトへの抗老化効果

エイジング研究最前線——世界初「NMN臨床試験に関する成果論文」を読む

Beyond Health - 2021/5/20 福島 安紀＝医療ライター

## ■ その他の注目研究・技術情報

### 生命の体内時計に共通して働くカルシウムイオン制御因子を発見—東大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2021/5/6 [http://www.qlifepro.com/news/20210507/nex.html](http://www qlifepro.com/news/20210507/nex.html)

体内時計は生物種ごとに独立進化したと考えられていた

東京大学は5月1日、哺乳類、昆虫、植物および細菌の体内時計に共通して働く因子として、カルシウムイオン（Ca<sup>2+</sup>）制御タンパク質であるNa<sup>+</sup>/Ca<sup>2+</sup>交換輸送体（NCX）を発見したと発表した。この研究は、名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所の金尚宏特任講師（研究当時：東京大学大学院理学系研究科特任助教）、東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻の深田吉孝教授（研究当時）、福岡大学医学部薬理学の岩本隆宏教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Science Advances」に掲載されている。-----

### 心理的ストレスが腸内細菌を攪乱するメカニズムを解明—北大

QLifePro 医療ニュース - 2021/5/12

<http://www.qlifepro.com/news/20210512/paneth-cell.html>

腸内細菌叢とその代謝物を調節する「 $\alpha$ ディフェンシン」に着目

北海道大学は5月11日、小腸のパネト細胞が分泌する自然免疫の作用因子である $\alpha$ ディフェンシンが心理的ストレスによって減少することを明らかにし、さらに、うつ状態を起すようなストレス下では $\alpha$ ディフェンシンの減少によって腸内細菌叢と腸内代謝物が異常となり、腸内環境の恒常性が攪乱することを初めて明らかにしたと発表した。-----

### 日本人におけるBMIと大腸がんリスクとの関連を明らかに—国がんほか

QLifePro 医療ニュース - 2021/5/12

<http://www.qlifepro.com/news/20210512/bmi-genetic.html>

従来の観察研究では交絡の影響、正確な評価が困難

国立がん研究センターは5月11日、日本ゲノム疫学研究コンソーシアム（J-CGE：Japanese Consortium of Genetic Epidemiology studies）を構築し、メンデルのランダム化解析により、BMIと大腸がんリスクとの関連をアジア人で分析し、遺伝的に予測される

BMI が 1 単位増加すると、大腸がんのリスクが 7%増加することが示唆されたことを明らかにした。-----

## 消費期限では分からない食品の“本当の品質”、日立がインク技術で見える化

MONOist - 2021/5/12 <https://monoist.atmarkit.co.jp/mn/articles/2105/12/news047.html>

日本国内における社会課題の一つに食品ロスがある。スーパーマーケットやコンビニエンスストアなどで販売されるさまざまな食品は、あらかじめ設定されている消費期限を迎えた場合には廃棄することになっている。閉店時間前などに値引き販売などを行って廃棄を避ける取り組みなどもあるが、最終的に売れ残った食品は廃棄せざるを得ない。また、家庭内においても、消費期限切れになった食品の廃棄が行われている。こういった食品ロスは、日本国内だけでも年間 615 万トン、世界全体では年間約 13 億トンにも上るといふ。-----

## エクサウィザーズ、ロボット自動学習システム「COREVERY」が粉体製造業の秤量自動化 AI システムを実現

IoT News - 2021/5/13 <https://iotnews.jp/archives/175218>

## 長瀬産業と IBM、AI を応用した味覚センサー技術「HyperTaste」を化学品分析サービスに応用

IoT News - 2021/5/18 <https://iotnews.jp/archives/175504>

## エクサウィザーズ、ロボット自動学習システム「COREVERY」が粉体製造業の秤量自動化 AI システムを実現

IoT News - 2021/5/18 <https://iotnews.jp/archives/175218>

## キリンホールディングス、ロボットを活用し「商品詰め合わせ・加工作業」を自動化する実証実験を開始

IoT News - 2021/5/13 <https://iotnews.jp/archives/175188>

## 工場の安全性と生産性を DX で向上させる、米国スタートアップ Iterate Labs

近年、様々な領域で進められている DX。コロナ禍で一気に加速したと感じている人も多  
いはず。今回は、工場の安全性と生産性を DX で向上させている Iterate Labs について紹介  
します。-----

以上

## 健康食品等に関する 日本語記事情報（2021 年 6 月号 No.1）

（6 月 8 日 14 時締め）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会  
学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安  
全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

*なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、  
食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨す  
るものではありません。*

英文記事情報については別途お送りいたします。

**記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承  
ください。**

### ○ 記事一覧

記事の見出しと冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております。

## ■ 安全性関連情報

### 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 被害関連情報および素材情報データベース

2021 年 6 月更新中

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2342>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2343>

素材情報データベース（新規） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2346>

2021年5月分

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2329>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2326>

素材情報データベース（新規） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2328>

## 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 「健康食品」の安全性・有効性情報サイトナビページ（2021/5/26）

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2311>

## 食品安全情報（化学物質）No. 11/ 2021（2021. 05. 26）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2021/foodinfo202111c.pdf>

**全リスト**

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

## 食品安全情報 blog - 2021/5/25、2021/5/27

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2021/05/25/183135>

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2021/05/27/174930>

**追記：英文記事情報でもご紹介した欧州食品安全機関による二酸化チタンの安全性評価に関連した情報等が紹介されています。**

## CBD 製品の買い上げ調査を実施 12 製品について違法成分 THC 「検出されず」

健康メディア.com - 2021/5/21 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15326](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15326)

厚生労働省医薬・生活衛生局は、4月23日に実施された第5回「大麻等の薬物対策のあり方検討会」の中で、CBD製品の買取り調査の結果を公表した。……

## 改正食衛法で登場した“指定成分”制度、4成分に要求された品質保証とは（特集／指定成分含有食品）

健康メディア.com - 2021/5/27 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15356](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15356)

昨年6月施行の改正食衛法で、コレウス・フォルスコリー、プエラリア・ミリフィカ、ブラックコホシュ、ドオウレンの4成分が「指定成分含有食品」に。サプリメントでは、ダ

イエット、アンチエイジング、抗メタボなどの訴求で認知される人気素材だが、加工・製造基準、成分の試験法、最終商品パッケージへの義務表示、健康被害情報の報告など、品質保証を要求する内容が示された。-----

以下の8件は食品安全委員会の食品安全総合情報システム (<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の検索結果 (5月21日朝実施) の中で目に付いたものです。締め日の関係で2週間遅れになりましたが、ご紹介いたします。

[見出しのクリックで内容をご覧頂けます。](#)

1. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品添加物としての二酸化チタン\(E171\)の安全性評価に関する科学的意見書を公表](#)
  2. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、欧州連合\(EU\)で食品添加物として認可されている二酸化チタン\(E171\)の安全性評価を更新し、もはや安全とはみなされないとの見解を公表](#)
- 1と2については、前号(5月25日発信)の英文記事情報で関連記事をご紹介しました。
4. [米国毒性物質疾病登録庁\(ATSDR\)、パーフルオロ化合物の毒性学的プロファイルの最終版を公表](#)
  9. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、新ゲノム技術を介して作出された植物のリスク評価に関する EFSA 及び欧州国家管轄当局公表の科学的意見書の概要に関する科学的報告書を公表](#)
  10. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、新ゲノム技術により作出される遺伝子組換え植物に関する科学的意見書 16 件の概要に関する外部委託機関による科学的報告書を公表](#)
  16. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、「リスク特定のための食品添加物中のナノ粒子の物理化学的特性評価」と題する外部委託報告書を公表](#)
  25. [欧州連合\(EU\)、新食品としてチアシード\(Salvia hispanica\)の使用条件の変更を認可する欧州委員会施行規則\(EU\) 2021/668 を官報で公表](#)
  27. [米国農務省動植物検疫局\(USDA-APHIS\)、遺伝子工学によって作出されたジャガイモに対する規制解除拡張に関して公表](#)

以下の4件は食品安全委員会の食品安全総合情報システム (<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の検索結果 (6月3日午後実施) の中で目に付いたものです。

[見出しのクリックで内容をご覧ください。](#)

5. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、植物における in vitro 及び in vitro ランダム突然変異誘発技術に関する科学的意見書草案に関する公開協議の開始を公表](#)

20. [フランス食品環境労働衛生安全庁\(ANSES\)、クマリンを含む植物のサプリメントの過剰摂取に対して注意喚起](#)

24. [オランダ国立公衆衛生環境研究所 \(RIVM\)、食品に含有される植物性自然毒の摂取量に関する調査報告書を公表](#)

30. [フランス食品環境労働衛生安全庁\(ANSES\)、食品添加物として使用される二酸化チタン\(E171\)の欧州食品安全機関\(EFSA\)による新たな評価に関して情報提供](#)

## ■ 不適切な表示、販売など（行政機関情報、その他）

### 株式会社ハウワイに対する景品表示法に基づく措置命令について

消費者庁 - 2021/6/3 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/024373/>

消費者庁は、本日、株式会社ハウワイに対し、同社が供給する「エターナルアイラッシュ」<sup>ユ</sup>と称する商品及び「重ね発酵ハーブ茶」と称する食品に係る表示について、消費者庁及び公正取引委員会(公正取引委員会事務総局近畿中国四国事務所)の調査の結果を踏まえ、それぞれ、景品表示法に違反する行為(同法第5条第1号(優良誤認)に該当)が認められたことから、同法第7条第1項の規定に基づき、措置命令を行いました。

[以下、公表資料へのリンク](#)

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

[以下、厚生労働省 医薬・生活衛生局 食品監視安全課 HACCP 推進室からの情報提供。](#)

### 【食品の安全に関する Q&A】

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/shokuhin/hokenkinou/qa/index.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/hokenkinou/qa/index.html)

2021年5月31日更新

- ・ [食品等自主回収（リコール）報告制度の創設に関する Q & A](#)

2021 年 5 月 31 日更新

- ・ [営業規制の経過措置に関する Q&A](#)

2021 年 5 月 31 日更新

- ・ [営業許可制度の見直し及び営業届出の創設に関する Q&A](#)

2020 年 5 月 31 日更新

- ・ [HACCP に沿った衛生管理の制度化に関する Q&A](#)

## 「日本薬局方の全部を改正する件（案）について」に関する御意見募集の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2021/6/7

<https://public-comment.e>

[gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=495200247&Mode=1](https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=495200247&Mode=1)

## ■ 海外公的機関情報

今回、このセクションでご紹介する記事は見当たりませんでした。

## ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

### 富士経済、農産加工品・畜肉加工品などの加工食品 4 カテゴリーの市場調査、キムチの 2020 年市場見込は 733 億円で前年比 10.1%増に

マイライフニュース - 2021/5/28

<https://www.mylifenews.net/data/2021/05/42020733101.html>

総合マーケティングビジネスの富士経済は、新型コロナウイルス感染症流行の影響から家庭内調理や家飲みでの需要を取り込み伸びている畜肉加工品や、市販用は伸長するも業務用が外食業態の不調により減少している農産加工品、水産加工品、乳油製品の市場を調査した。その結果を「2021 年 食品マーケティング便覧 No.6」にまとめた。-----

### 矢野経済研究所、コロナ禍における流通菓子市場に関する調査、2020 年度は前年度比 1.6%減の 2 兆 232 億円と予測

マイライフニュース - 2021/5/28

<https://www.mylifenews.net/data/2021/05/2020162232.html>

矢野経済研究所は、国内の流通菓子市場を調査し、製品カテゴリ別の動向、参入企業の動向、将来展望を明らかにした。2020年度の流通菓子市場規模を前年度比1.6%減の2兆232億円と予測した。コロナ禍で、自宅で消費される流通菓子はプラス、外出を伴う食シーンの製品群や土産向けの製品が大幅なマイナスの見込であることが明らかとなった。-----

## ■ 具体的素材・成分、製品情報（市場予測・動向等）

### 抗ウイルス・抗菌機能で再脚光（特集／プロポリス）

健康メディア.com - 2021/5/21 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15336](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15336)

プロポリスが再評価されている。コロナ禍において抗ウイルスや抗菌、免疫機能が評価され、サプライヤー各社からは、「通販での売れ行きが10~15%伸長した」などの声があがっている。新たなユーザー獲得に向けた取り組みでは、キャンディやスプレー、化粧品、ペット向け商材といったライトな商品開発も。プロポリス市場拡大に向けた取り組みが進んでいる。-----

## ■ 企業動向、注目ビジネス情報

### 京都大学とオムロン ヘルスケアとの共同研究

#### 「健康医療 AI 講座」の設置へ

～AI 技術と家庭計測で、脳・心血管疾患の発症予防を目指す～

オムロンヘルスケア株式会社 - 2021/5/27

<https://www.healthcare.omron.co.jp/corp/news/2021/0527.html>

オムロンヘルスケア株式会社（本社所在地：京都府向日市、代表取締役社長：荻野 勲）と、京都大学（所在地：京都府京都市左京区、総長：湊 長博）は、AI（人工知能）解析技術と今までにない革新的な家庭計測データを用いた共同研究「健康医療 AI 講座」（研究代表者：京都大学 大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 教授 奥野 恭史、以下本講座）を、6月1日より新たに設置します。-----

### サントリー食品と日立、新工場においてトレーサビリティとIoT基盤を構築・活用を開始

IoT News - 2021/5/31 <https://iotnews.jp/archives/176233>

サントリー食品インターナショナル株式会社(以下、サントリー食品)とサントリープロダクツ株式会社は、グループ会社と協働し、株式会社日立製作所との協創を通じて本日稼働開始した新工場において、トレーサビリティとIoT基盤を構築し、活用を開始した。-----

## SDGs 対応の重要性が高まっている (連載/オピニオン)

健康産業オンライン - 2021/5/26

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15347](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15347)

健康食品企業によるSDGs対応を目にすることも増え、目標3「すべての人に健康と福祉を」だけでなく、目標8「働きがいも 経済成長も」、目標12「つくる責任 つかう責任」ほか、ゴールに向けた多面的な取り組みが進められている。-----

## ■ 消費者意識等の調査・分析

今回、特に見当たりませんでした。

## ■ 食品、食品素材・成分関連情報 (科学的知見中心)

### オイルサーディンの摂取が2型糖尿病の予防に役立つ?

リンク DE ダイエット – 2021/5/26 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.5.26, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=75141&lay=lay&Find.html>

オイルサーディンの定期的な摂取が2型糖尿病の発症予防に役立つようだ、というスペイン・カタルーニャ・オベルタ大学からの研究報告。-----

**追記: 5月25日発信の英文記事情報で以下の論文情報として紹介済みです。**

「Clinical Nutrition」掲載論文: 「Type 2 diabetes preventive effects with a 12-months sardine-enriched diet in elderly population with prediabetes: An interventional, randomized and controlled trial」

[https://www.clinicalnutritionjournal.com/article/S0261-5614\(21\)00153-9/fulltext#](https://www.clinicalnutritionjournal.com/article/S0261-5614(21)00153-9/fulltext#)

### β-シトステロールはマウスの不安を和らげる?

リンク DE ダイエット – 2021/5/31 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.5.31, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=75188&-lay=lay&-Find.html>

植物由来の $\beta$ -シトステロールは、それ単独で、および抗うつ剤との併用で、マウスの不安の軽減に有効かもしれない、というイスラエルのワイツマン科学研究所からの報告。-----

## ココアはストレスから心臓を保護するかも？

リンク DE ダイエット – 2021/6/7 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.6.7, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=75246&-lay=lay&-Find.html>

フラバノールの摂取を増やすと、精神的ストレスが引き起こす心血管系イベント（脳卒中、心筋梗塞、血栓症など）のリスクが低下するかもしれない、という英国バーミンガム大学からの研究報告。-----

## 健康に良くない食品の組み合わせが明らかに 英国での約 12 万人の前向きコホート研究

スポーツ栄養 WEB - 2021/5/22 <https://sndj-web.jp/news/001339.php>

栄養素の摂取量と健康の関連については膨大な研究報告がある。しかし人々は「栄養素」を口にしているのではない。食べているのはあくまで「食品」である。このような当たり前とも言える視点に立ち返り、摂取している食品の組み合わせと健康との関連を検討した研究が行われた。英国で行われている中年成人対象の大規模前向きコホート研究「UK Biobank」のデータを解析した研究だ。-----

## 第 5 回「クレアチン摂取によるメンタルパフォーマンスの向上」

スポーツ栄養 WEB - 2021/5/28 <https://sndj-web.jp/news/001348.php>

サプリメントを安全かつ効果的に活用するには、サプリメントに関する正しい知識が不可欠です。本シリーズでは、スポーツサプリメントの代表格であるクレアチンについて、エビデンスに基づいた情報を取りまとめ、テーマ別にご紹介いたします。-----

## 世界 100 万人の研究のメタ解析で、魚の摂取量と糖尿病リスクを検討 その結果は？

スポーツ栄養 WEB - 2021/5/31 <https://sndj-web.jp/news/001347.php>

魚は一般的に健康的な食品とされることが多く、魚の摂取量と心血管疾患のリスクの低さに関連がみられることなどが報告されている。では、糖尿病はどうだろうか？ 参加者数合計約 96 万人に及ぶ、世界各地で実施された 28 件の前向きコホート研究のメタ解析が行われた。結果は意外にも、-----

## 緑茶カテキン EGCG、糖からの酸産生と細菌の歯面付着を抑制する可能性 - 東北大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2021/6/3

<http://www.qlifepro.com/news/20210603/egcg-streptococcus-mutans.html>

### 緑茶に多く含まれる EGCG の抗菌メカニズムを調査

東北大学は 6 月 2 日、ミュータンスレンサ球菌を含むう蝕関連菌に対するエピガロカテキンガレート（EGCG）の抗菌効果を調べた結果、緑茶と同等の濃度の EGCG はこれら細菌を死滅させないものの、糖からの酸産生を抑制することが明らかになったと発表した。-----

## ■ その他の注目研究・技術情報

### 唾液タンパク質データベースが個別化医療を変革する

The Medical AI Times (TOKYO analytica) - 2021/5/28

<https://aitimes.media/2021/05/28/8102/>

米国立歯科・頭蓋顔面研究所（NIDCR）によって資金提供された「Human Salivary Proteome Wiki」は、唾液タンパク質についての公開データプラットフォームとして 2019 年にリリースされた。そこでは、唾液プロテオーム、ゲノム、トランスクリプトーム、およびグライコーム等に関する情報が幅広く集積・公開されている。-----

### ポストアンチエイジングの潮流「細胞再活性化」が注目される理由とは？

ウェルネス総研レポート - 2021/5/19 <https://wellnesslab-report.jp/1043/>

長寿が達成されつつある今、健康寿命の延伸が 21 世紀の世界共通の課題となっています。近年、老化のメカニズムの科学的な解明が遺伝子レベルで飛躍的に進み、老化するのは細胞であり、活性を失った細胞を再び活性化させる「細胞再活性化」によって、若さと健康を保つことができることがわかってきました。-----

## 細胞再活性化のキーワード「オートファジー」を知る

ウェルネス総研レポート - 2021/5/19 <https://wellnesslab-report.jp/1121/>

アンチエイジングの新潮流である細胞再活性化とはすなわち、細胞の新陳代謝を高めることにほかなりません。その重要な機能をにうのが、世界が注目する「オートファジー（自食作用）」。

## サーチュイン遺伝子 老化制御に重要な役割を果たす「長寿遺伝子」

江田 憲治=Beyond Health 2021.6.3

<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/keyword/19/00113/>

以上

### 健康食品等に関する

### 日本語記事情報（2021年6月号 No.2）

（6月22日 15時締め）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

*なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。*

**記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。**

#### ○ 記事一覧

記事の見出しと冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております。

### ■ 安全性関連情報

## 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 被害関連情報および素材情報データベース

2021年6月更新中

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2342>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2343>

素材情報データベース（新規） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2346>

2021年5月分

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2329>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2326>

素材情報データベース（新規） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2328>

## 食品安全情報（化学物質）No. 12/ 2021（2021. 06. 09）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2021/foodinfo202112c.pdf>

**全リスト**

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

## 健康食品をお使いの方へ ～過剰摂取の危険性～（Ver.210609）

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 - 2021/6/9)

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail138.html>

以下の2件は食品安全委員会の食品安全総合情報システム（<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>）の検索結果（6月17日朝実施）の中で目に付いたものです。

[見出しのクリックで内容をご覧ください。](#)

- [1. 欧州連合\(EU\)、新食品「ガラクトオリゴ糖」の使用条件の変更を認可する委員会施行規則\(EU\) 2021/900 を官報にて公表](#)
- [4. 欧州食品安全機関\(EFSA\)、 \$\alpha\$ -リポ酸\(チオクト酸\)の摂取とインスリン自己免疫症候群リスクとの関連性に関する科学的意見書を公表](#)

■ 不適切な表示、販売など（行政機関情報、その他）

## アフィリエイト広告等に関する検討会の資料を公表しました。

消費者庁 - 2021/6/9

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/meeting\\_materials/review\\_meeting\\_03/024308.html](https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/meeting_materials/review_meeting_03/024308.html)

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

### 第 95 回コーデックス連絡協議会（開催案内）

厚生労働省 - 2021/6/18 [https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_18996.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_18996.html)

#### 議題

(1)コーデックス委員会の活動状況

ア 今後の活動について

- ・ 第 25 回食品残留動物用医薬品部会(CCRVDF)
- ・ 第 52 回残留農薬部会(CCPR)

イ 最近コーデックス委員会で検討された議題について

- ・ 第 5 回スパイス・料理用ハーブ部会(CCSCHE)
- ・ 第 14 回食品汚染物質部会(CCCF)
- ・ 第 41 回分析・サンプリング法部会(CCMAS)

-----

### 有機藻類の日本農林規格案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2021/6/17

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003336&Mode=0>

### そしゃく配慮食品の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2021/6/17

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003334&Mode=0>

## ■ 海外公的機関情報

今回このセクションでご紹介するものは見当たりませんでした。

## ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

### 富士経済、国内加工食品 27 カテゴリー411 品目の市場を総括・分析、2021 年市場は 2020 年見込比 2.0%増の 22 兆 6355 億円に

マイライフニュース - 2021/6/18

<https://www.mylifenews.net/data/2021/06/274112021202020226355.html>

総合マーケティングビジネスの富士経済は、昨年 7 月から 6 回に分けて行ってきた 27 カテゴリー411 品目の加工食品の市場調査結果を総括・分析した。その結果を「2021 年 食品マーケティング便覧 総市場分析編」にまとめた。-----

## ■ 具体的素材・成分、製品情報（市場予測・動向等）

### 血流改善・温活サポート商材、人気上昇中（特集／血流改善）

健康メディア.com - 2021/6/15 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/15380](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15380)

栄養バランスの偏った食事や運動不足、不規則な睡眠時間、過度なストレス— など、生活習慣の乱れに対して悩みを抱えている現代人は多い。生活習慣の乱れは血流の停滞を生み、血流の停滞は生命活動を支える免疫系や代謝系にも悪影響を及ぼす。冷え症状、ゴースト血管、高血圧、動脈硬化、男性機能低下— など、生活習慣病を介して知らず知らずの内に重病化が進行していく危険性もはらんでいる。こうした中、血流改善をサポートする商材へのニーズは年々高まっている。-----

## ■ 企業動向、注目ビジネス情報

### 「明治 栄養ステートメント」策定のお知らせ～お客さまの健康で充実した生活により一層貢献していくために～

株式会社 明治 - 2021/6/15

[https://www.meiji.co.jp/corporate/pressrelease/2021/0615\\_01/](https://www.meiji.co.jp/corporate/pressrelease/2021/0615_01/)

株式会社 明治（代表取締役社長：松田 克也）は、当社の“栄養”についての考え方や向き合い方を示した「明治 栄養ステートメント」を策定しましたのでお知らせいたします。  
「明治 栄養ステートメント」は、今まで以上に新たな価値を創造し、その価値をお客さまに届けていくために、グループ理念を各事業や商品に落とし込む際の考え方を明文化したものです。-----

## 日立ソリューションズ、画像認識 AI を活用して作業員の安全装備の未装着や危険な行動を検知するソリューションを販売開始

Iot News - 2021/6/15 <https://iotnews.jp/archives/177228>

## PTC、AR 技術を活用し製造業における検査工程の効率化を行う新製品「Vuforia Instruct」の提供を発表

Iot News - 2021/6/15 <https://iotnews.jp/archives/177097>

## 【連載】ベンチャー巡訪記【全記事まとめ】

AnswersNews - 2021/6/18 <https://answers.ten-navi.com/pharmanews/19621/>

製薬業界のプレイヤーとして存在感を高めるベンチャー。注目ベンチャーの経営者を訪ね、創業のきっかけや事業にかける想い、今後の展望などを語ってまいります。

## **■ 消費者意識等の調査・分析**

### キューピー、食生活調査 2020 年度「えがおの食生活研究」を実施、惣菜は「手軽さ」だけでなく「おいしさ」を求めて利用する時代へ

マイライフニュース - 2021/6/9 <https://www.mylifenews.net/data/2021/06/2020-5.html>

キューピーは、20～70 代の既婚女性約 1500 人を対象に食生活調査「えがおの食生活研究」を実施した。その結果、惣菜は「手軽さ」だけでなく「おいしさ」を求めて利用する時代へ突入した。また、調理スキルの低下とともに、食生活満足度も低下傾向にあることもわかった。-----

### 大塚製薬、女性のヘルスリテラシーに関するアンケート調査、「女性ホルモンの働き」について知識がある人はわずか 17%

マイライフニュース - 2021/6/18 <https://www.mylifenews.net/data/2021/06/17.html>

大塚製薬の「女性の健康推進プロジェクト」は、全国の35歳から59歳の女性約2400名を対象に、女性のヘルスリテラシーの現状を知るため「女性の健康に対するアンケート調査」を、1月下旬に実施した。その結果、「女性ホルモンの働き」について知識がある人はわずか17%で、ヘルスリテラシーの高い人は、生活への満足度が高く仕事のパフォーマンスも高い傾向であることがわかった。-----

## ■ 食品、食品素材・成分関連情報（科学的知見中心）

### 低たんぱく質高炭水化物ダイエットの健康上の利点は、炭水化物の種類によって異なる

リンク DE ダイエット – 2021/6/14（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.6.14, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=75301&-lay=lay&-Find.html>

33種類の異なる比率で組み合わせたたんぱく質と異なる由来の炭水化物を含む食事をマウスで試したという、これまでで最大級の実験が豪州シドニー大学で実施された。

### 食事と概日時計の変化に影響される健康な脂肪細胞

リンク DE ダイエット – 2021/6/17（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.6.17, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=75343&-lay=lay&-Find.html>

生活リズムに合わせて、かつ質の高い食事を摂ることは、健康的な脂肪を維持するために重要であることが、マウスを用いた動物実験で示唆された。米国テキサス大学などによる研究。-----

### たった8週間で、生物学的に3歳若返る！？

リンク DE ダイエット – 2021/6/22（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.6.22, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=75373&-lay=lay&-Find.html>

食事とライフスタイルへの介入で DNA メチル化のバランスをとることにより、わずか 8 週間で生物学的年齢を 3 年以上下げられるかもしれない、という米国の機能医学研究所などからの研究報告。-----

## 高炭水化物（高 GI、高 GL）の食事は、睡眠効率を低下させる可能性あり

スポーツ栄養 WEB - 2021/6/8 <https://sndj-web.jp/news/001353.php>

炭水化物の摂り方と睡眠との関連に関するシステマティックレビューとメタ解析の結果が報告された。グリセミックロード（glycemic load ; GL）が高い食事は深い睡眠（徐波睡眠）を減らしてレム睡眠を増やすことがわかった。一方、-----

## 食品リテラシーの評価法の国際的標準化 その開発の状況

スポーツ栄養 WEB - 2021/6/9 <https://sndj-web.jp/news/001357.php>

国際的に標準化された食品リテラシーの評価法の開発の試みが進められている。その現状が先ごろ報告された。この領域の専門家の意見をデルファイ法で集約し、現段階で 119 項目のコンセンサスが得られているという。-----

## 糖質や脂質を有効活用！ ミトコンドリア機能を高めて持久力 UP！

スポーツ栄養 WEB - 2021/6/21 <https://sndj-web.jp/news/001372.php>

負荷が強い運動では、エネルギー源として糖質が多く使われる。体内の糖質の大半はグリコーゲンであり、アスリート、とくに持久力系スポーツのアスリートは、食事の摂り方を工夫してグリコーゲンをできるだけ多く蓄える戦略が競技後半のパフォーマンス低下抑制に役立つ。-----そこで、もう一つの主要なエネルギー源である脂質の出番となる。-----

## ■ その他の注目研究・技術情報

### 老化による腸内細菌の変化メカニズム、世界で初めて解明 北大の研究

財経新聞 - 2021/6/16 <https://www.zaikei.co.jp/article/20210616/625557.html>

-----。

北海道大学の研究グループは 11 日、加齢によって起こる腸内細菌叢の変化が、腸の細胞で作られる  $\alpha$  ディフェンシンが減ることに起因することを突き止めたと発表した。今後、 $\alpha$  ディフェンシンを中心とした治療法や健康維持法などへの応用が期待できる。-----

## 乳酸の抗うつ力の背後にあるメカニズム

リンク DE ダイエット - 2021/6/15 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.6.15, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=75308&lay=lay&Find.html>

運動中に体が生成する分子である乳酸の抗うつ効果の背後にあるメカニズムを同定した、というスイス国立精神障害研究能力センターなどからの研究報告。-----

## 加齢に伴う筋肉の量・質の低下、男性は女性より急激に起こると判明ー長寿研ほか

QLifePro 医療ニュース - 2021/6/10

<http://www qlifepro.com/news/20210610/quadriceps.html>

サルコペニアのより適切な評価のため、加齢の影響が大きい「大腿四頭筋」に着目

名古屋大学は 6 月 9 日、サルコペニアのよりの確な診断方法を検討するため、大腿中央部を撮影した CT 画像より計測される大腿四頭筋の筋肉の量と質に注目し、性別・年代別での違いや膝伸展筋力との関係性について明らかにしたと発表した。-----

## 加齢に伴い腸の抗菌ペプチドが減っていくという新規免疫老化メカニズム発見ー北大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2021/6/14

<http://www qlifepro.com/news/20210614/alpha-defensin.html>

加齢が小腸パネト細胞の  $\alpha$  ディフェンシン分泌へ及ぼす影響は？

北海道大学は 6 月 11 日、小腸のパネト細胞から分泌される自然免疫の作用因子である抗菌ペプチド  $\alpha$  ディフェンシンが高齢者では若年者に比べて低いことを示し、そのことが高齢者における腸内細菌叢の変化（遷移）に関与していることを初めて明らかにしたと発表した。この研究は、同大学院先端生命科学研究の中村公則准教授、綾部時芳教授と、同大学院医学研究院の玉腰暁子教授との共同研究グループによるもの。研究成果は、加齢医学の国際学術専門誌「GeroScience」にオンライン公開されている。-----

## 人工甘味料の摂取で起こる下痢を、腸内細菌が抑制していることをマウスで確認－慶大

QlifePro 医療ニュース - 2021/6/21

<http://www qlifepro.com/news/20210621/sugar-alcohol.html>

ソルビトールなど「糖アルコール」による下痢の起こりやすさを規定する因子は？

慶應義塾大学は6月18日、腸内細菌が人工甘味料の摂取によって引き起こされる下痢を抑制することを明らかにしたと発表した。この研究は、同大薬学研究科の服部航也修士課程生（研究当時）、同薬学部の秋山雅博特任講師、金倫基教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Nutrients」電子版に掲載されている。-----

## 細胞から全身を元気にするという新発想「細胞再活性化」のスイッチとは

ウェルネス総研レポート - 2021/6/11 <https://wellnesslab-report.jp/1237/>

年齢とともに老いゆく身体。老いは自然現象で、根本的に止めることはできません。しかし、そんな常識を覆す研究が行われています。

「細胞再活性化」というアプローチは、老化したパーツごとに行われてきたアンチエイジングと異なり、“全身の細胞そのものに働きかける”新しい発想。その鍵を握るのが「オートファジー」や「サーチュイン遺伝子」の存在です。細胞の老化にブレーキをかけるこれらの日常的な活性には、なにが必要なのでしょう？

ここでは、「オートファジー」や「サーチュイン遺伝子」活性のスイッチを入れる方法として、食事や運動、食品素材について解説していきます。-----

## 「人工知能（AI）技術分野における大局的な研究開発のアクションプラン」を公表 —12の「取り組むべきAI技術開発」を抽出、事業化へ向け検討を推進—

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 - 2021/6/14

[https://www.nedo.go.jp/news/press/AA5\\_101439.html](https://www.nedo.go.jp/news/press/AA5_101439.html)

NEDOは人工知能（AI）技術戦略の策定およびプロジェクトの早期開始に向けて、AI技術や密接に関係する技術、さらにはAIを含む新技術について開発の方向性などを大局的に検討・整理した「人工知能（AI）技術分野における大局的な研究開発のアクションプラン」（AIアクションプラン）を公表しました。-----

## 睡眠段階を自動解析するAIプロジェクト「U-Sleep」

The Medical AI Times - 2021/6/10 (TOKYO analytica)

<https://aitimes.media/2021/06/10/8205/>

-----。デンマークのコペンハーゲン大学からのニュースリリースによると、同大学は国内の睡眠医学研究センターと共同で、睡眠障害の診断と治療、そしてその理解を深める AI 開発プロジェクト「U-Sleep」を実施している。研究成果は学術誌 npj Digital Medicine に発表された。-----

## **脳年齢を睡眠時の脳波で予測する AI 研究**

The Medical AI Times - 2021/6/14 (TOKYO analytica)

<https://aitimes.media/2021/06/14/8221/>

実年齢とは異なる、個人差のある老化や基礎疾患を反映した「生理的年齢」を測る AI 解析手法が近年のトレンドとなっている（過去記事 1）。以前にも紹介した米国の睡眠 AI スタートアップ EnsoData 社（過去記事 2）を中心に行われた「睡眠時の脳波から脳の年齢を予測する AI 研究」を紹介する。-----

以上